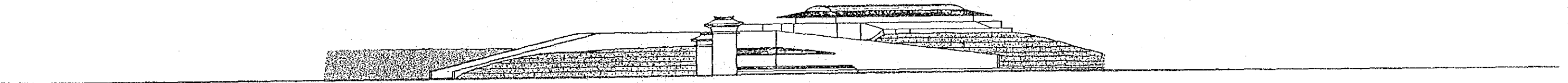
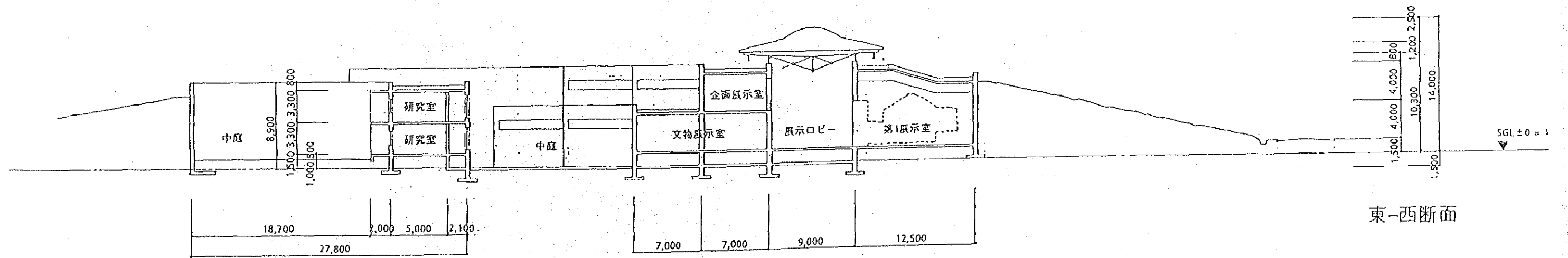
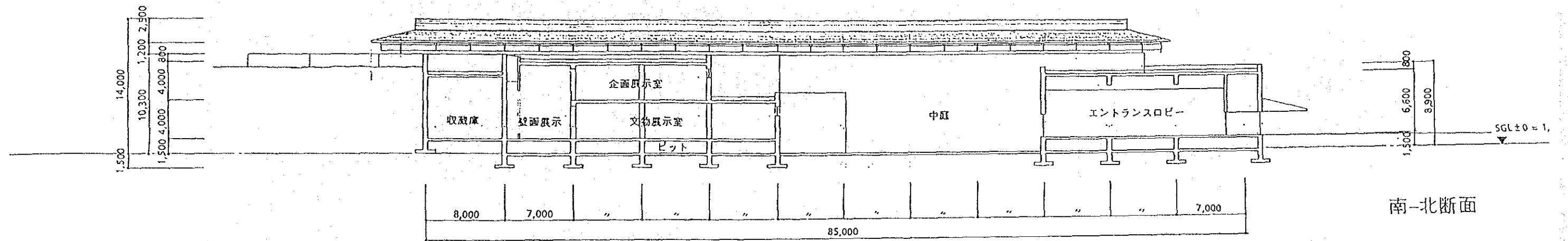


西立面图

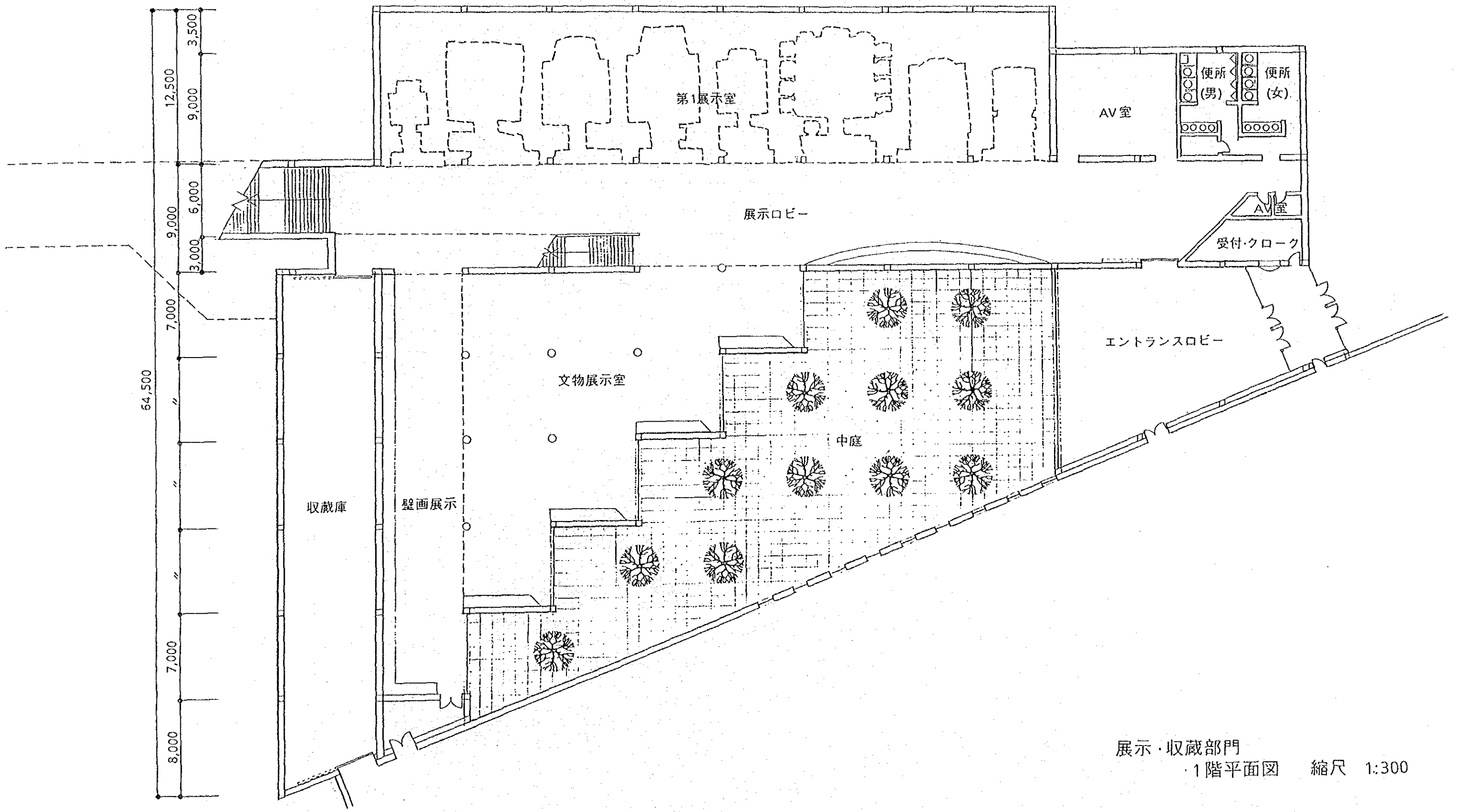
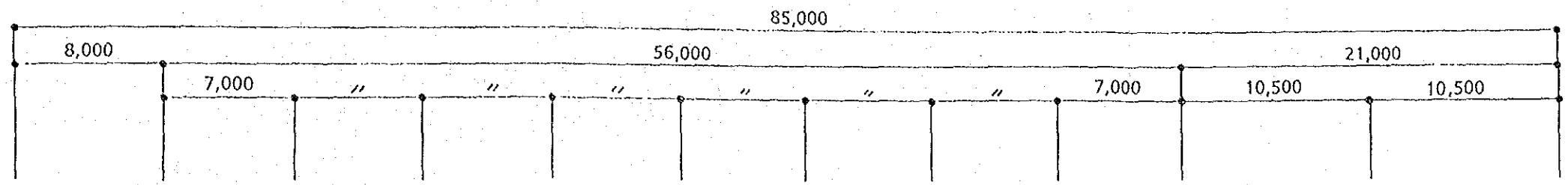
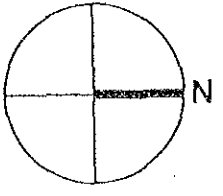


北立面图

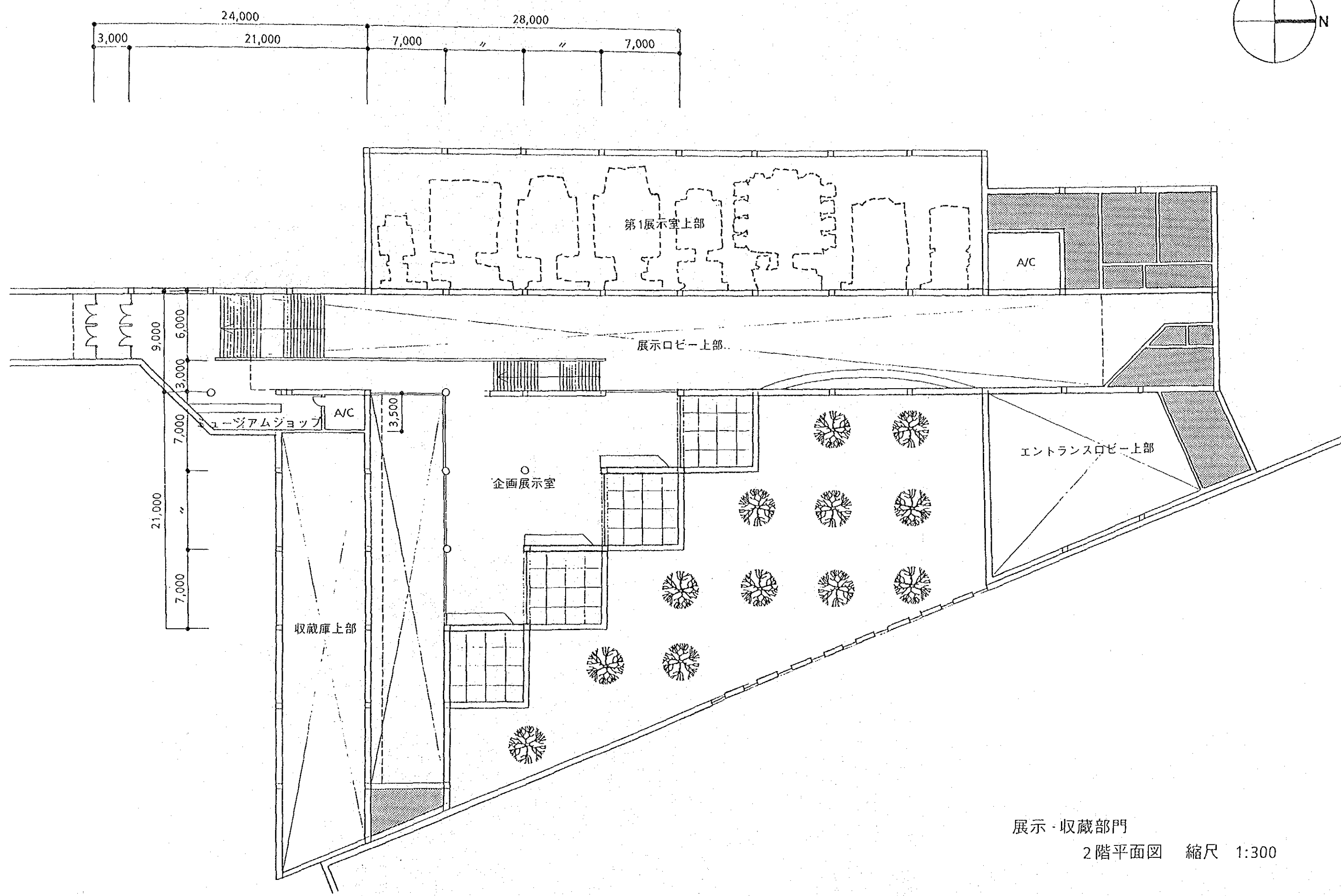
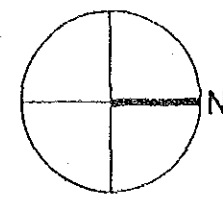
立面图 縮尺 1:800



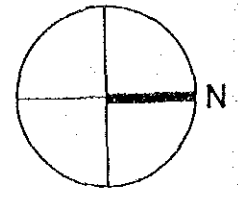
断面図 縮尺 1:400



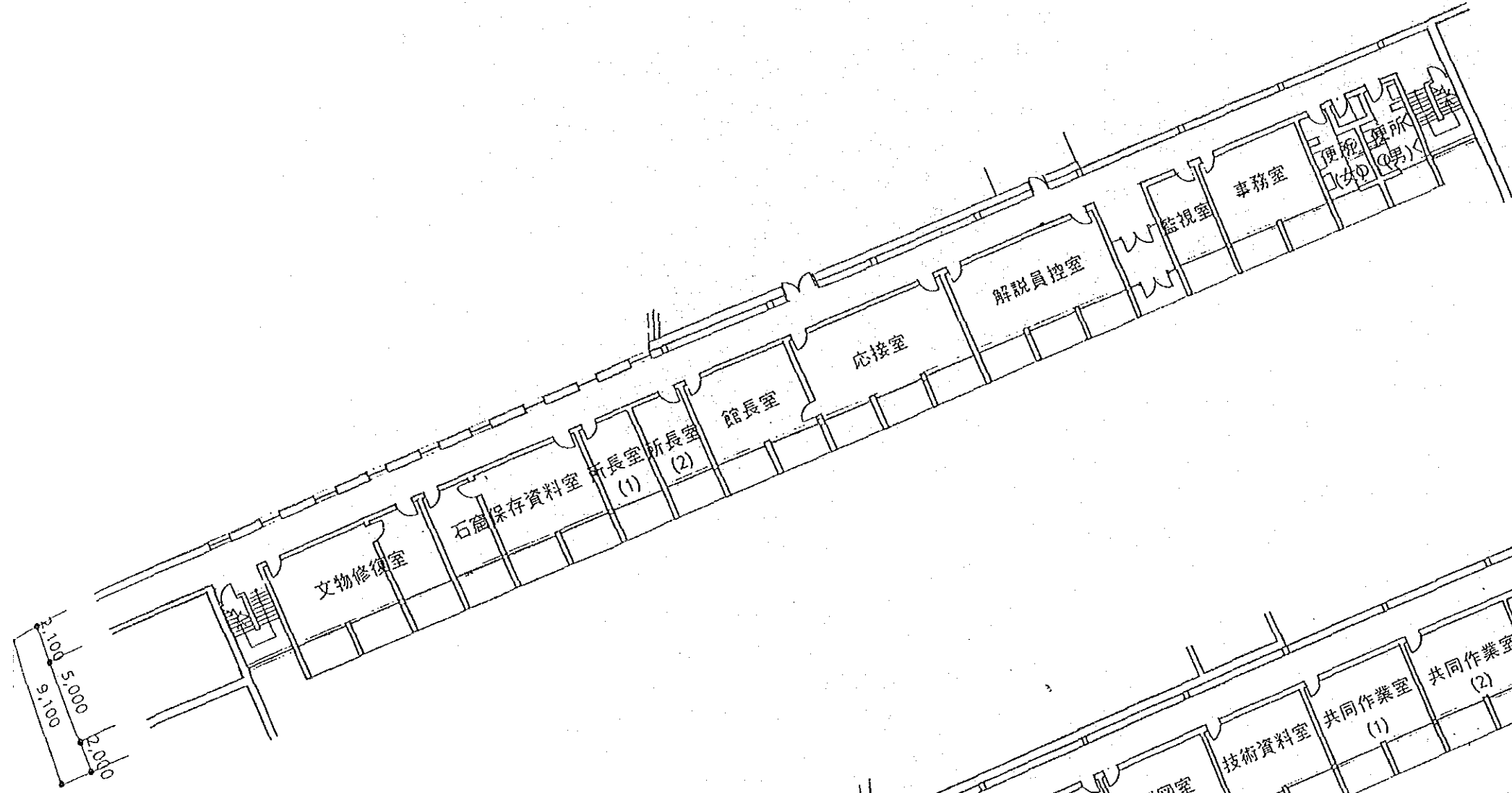
展示・収蔵部門
1階平面図 縮尺 1:300



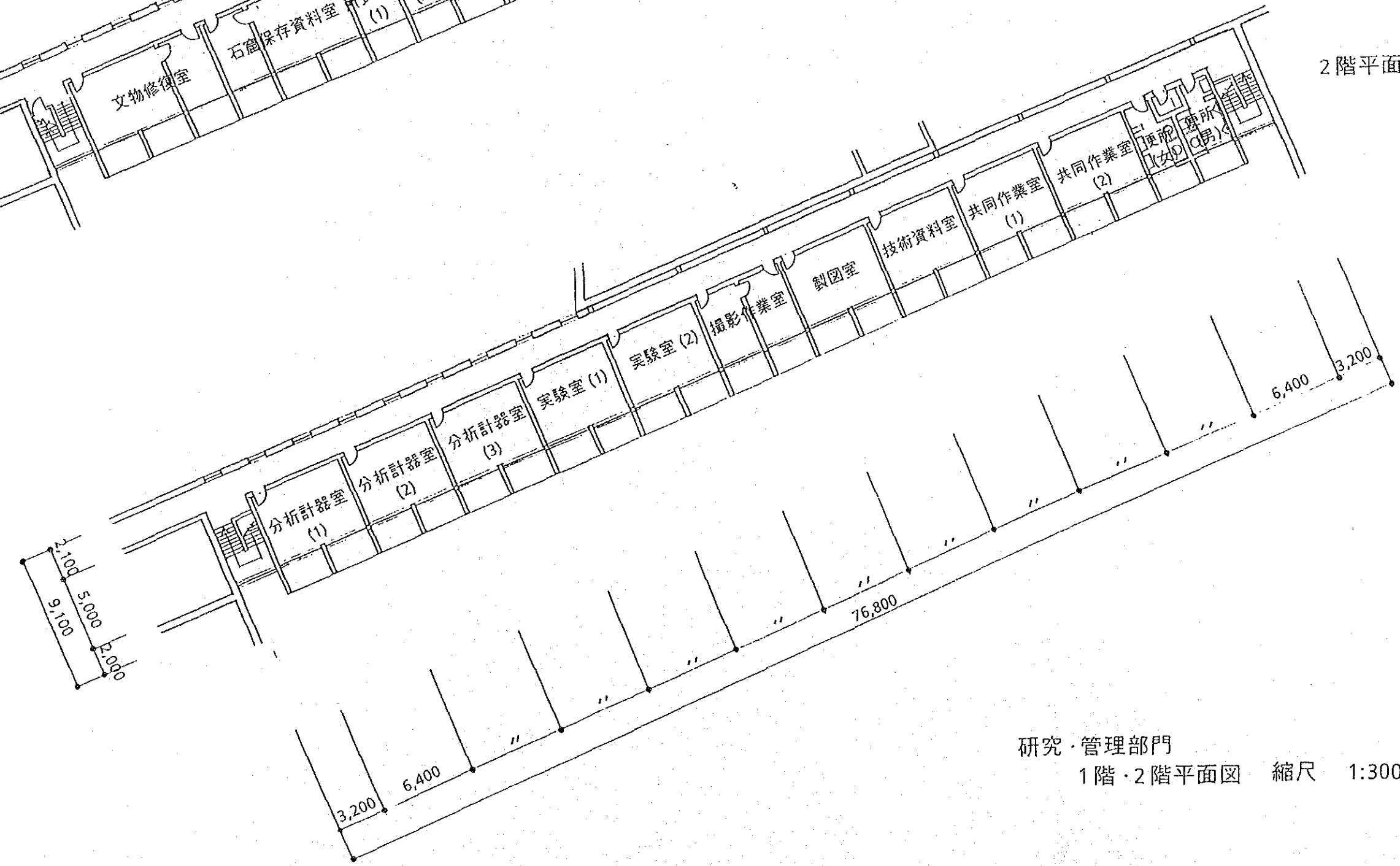
展示・収蔵部門
2階平面図 縮尺 1:300



1階平面図



2階平面図



研究・管理部門
1階・2階平面図 縮尺 1:300

資料

協議議事録

中華人民共和國敦煌石窟文化財保存研究・展示センター 建設計画基本設計調査に係る協議議事録

中華人民共和國敦煌石窟文化財保存研究・展示センター（以下「保存研究・展示センター」という）建設計画に係る1988年10月27日付同計画事前調査団協議議事録（以下「事前調査協議議事録」という）に基づき、日本側は本計画の基本設計調査の実施を決定し、東京芸術大学美術学部長平山郁夫教授を団長とする調査団を中華人民共和國に派遣した。

調査団と敦煌研究院は、事前調査協議議事録及び中国側専門家来日時（1989年2月27日～3月19日）における協議を踏まえ、1989年3月31日から4月4日まで真摯かつ友好的な雰囲気のもと、本計画に関し一連の協議を行った。

甘肅省對外經濟貿易委員會、甘肅省文化庁、甘肅省科學技術委員會、甘肅省計画委員會、中國市政工程西北設計院からも本協議に参加した。

この議事録は、これらの結果を以下のとおり取りまとめたものである。

1. 本建設計画の目的

「事前調査協議議事録」に記載された内容に変更ないことを双方再確認した。

2. 本計画の位置

本計画の位置は、甘肅省敦煌市莫高窟区内で、具体的な位置は、莫高窟の環境等を勘案し、「事前調査協議議事録 付表-1」の位置より若干東へ移動するものとし、その位置は付表-1に示すとおりであり、サイト内の土塔については移設を行わない。

3. 実施機関

「事前調査協議議事録」に変更ないことを双方再確認した。

4. 保存研究・展示センターの組織・人員

調査団は、中国側から付表-3による保存研究・展示センターの組織・人員について提示があったことを確認した。

5. 要請の内容

調査団は、中国側から付表-2にある施設の建設（関連設備を含む）及び保存研究用等機材の供与に関し無償資金協力の要請及びその設計条件等についての要望があったことを確認した。

6. 基本設計素案

- 中国側専門家来日時に提示のあった付表-4の設計素案を、今後の概略設計検討のため台とすることを双方確認した。又、中国側要請施設、機材内容及び要請面積、数量についてはその必要性、妥当性を十分検討することを双方確認した。

7. 文化財保存等に関する研究テーマ

調査団は、中国側から付表-5による研究テーマに関する提示があったことを確認した。但し、研究テーマの実施に関しては、中華人民共和国文物事業管理局、甘肅省人民政府文化庁に申請し、許可を得なければならない。

8. 人的交流

「事前協議議事録」の主旨に則り関係機関において、今後ともこの促進に努力することを双方確認した。

9. 今後の基本設計調査工程

今後の基本設計調査は次の工程にて実施されることを双方確認した。

第二フェーズ現地調査の実施：1989年7月上旬 ----- 中間報告書(日本文)10部提出。中文要旨添付

最終報告書ドラフト説明：1989年10月上旬 ----- ドラフト報告書(日本文)10部提出。中文要旨添付

最終報告書の提出：1989年12月上旬 ----- 最終報告書(日本文)10部提出。中文要旨添付

10. 中国側の取るべき措置

双方は「事前調査団協議議事録」の内容を再度確認した。

11. 無償資金協力のしくみ

双方は「事前調査協議議事録」の内容を再度確認した。

1989年4月3日

於 中華人民共和國甘肅敦煌

日本国
国際協力事業団
基本設計調査団長
平山 郁夫

平山郁夫

基本設計調査副団長

○ 齋藤 泰雄

齋藤泰雄

中華人民共和國
敦煌研究院 院長

段 文杰

段文杰

甘肅省對外經濟貿易委員會
項目官員

祁 世軍

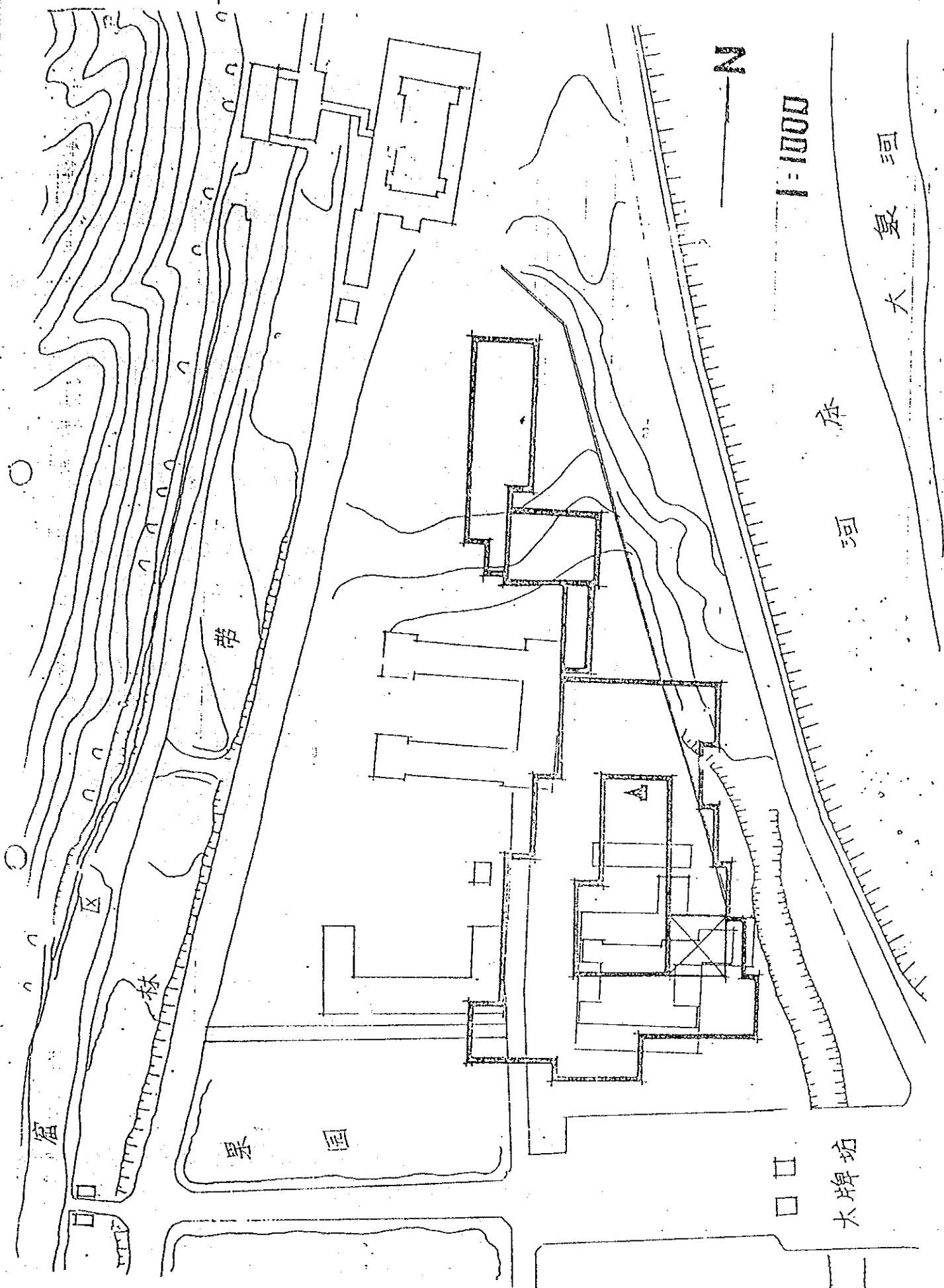
祁世軍

甘肅省文化庁
副庁長
董 長河

董長河

甘肅省科學技術委員會外事処処長劉德芳、甘肅省計委社會事業処
処長楊文健が協議に参加した。

附表一



N

1:1000

大板坊河

大牌坊

帶

果園

窟

林

A

付表-2

要請内容	設計条件・負担区分に関する要望事項
1. 施設	
1) 第一展示室	<p>各朝代と代表する8つの原寸大石窟模型の展示(事前調査協議議事録の通り)を行う。 但し石窟模型は適宜入れ替えを行う。</p>
2) 第二展示室	<p>展示物 : 敦煌壁画の模写が塑像の代表作、出土品 展示壁 : 長さ --- 150 m 高さ --- 3から4 m その他 : 展示解説を行い表示言語は中国語、日本語、英語とする。 : 展示参観者は1日平均1000人を想定し、参観方法は15から20人を一ツのグループとして解説者が案内を行う。 : 展示物材料のうち中国側で入手できないもの、展示具(大型ガラス等)、石窟模型骨組み用鉄骨については日本側からの供与を希望する。 : 中国側は、本計画に關し必要とされる展示物については、中国側の負担において本センター-同館にて制作、据付を行う。</p>
3) 保存修復室 4) 保存研究室 5) 化学実験室 6) 物理実験室 7) 資料室 8) 文物收藏庫 9) 視聴覚室 10) 安全保衛室	<p>既有の安全保衛室はこれを取り壊し、保存・展示センターの一部として設置するを希望する。</p>
11) 事務室	

要請内容

設計条件・負担区分等に関する要望事項

2. 設備

1) 給水設備

水源(大泉)より敷地までの給水管布設は中国側とし、構内給水設備及び軟水化設備は日本側負担を要望。

2) 防火・防犯設備

建築物の耐火等級は、中国建築防災規範1級に基く計画を要望。

3) 電力供給設備

電源は公共電源(380V)とする。

220Vへの変圧器、定電圧装置、非常用電源設備は日本側負担を要望。電気の引き込みは中国側負担とする。

4) 空調・暖房設備

温熱源は石炭ボイラーとする。

5) 通信設備

電話

外線引き込みは中国側負担とし、構内交換機の設置は日本側負担を要望。

無線電話設備

敦煌~榆林窟及び敦煌~西千仏洞間の無線電話設備を要望。

3. 機材

1) 分析測定用機材

付表 2-1 に示す。

2) 撮影記録用機材

付表 2-2 に示す。

3) 車輛

小型バス: 22人乗り、局地型乗用車(ラドクルーザー)、小型貨物車(6人乗り)、オムトラック(トラックの内1台はクレーン付)
--- 全2各2台

附表 2-1

敦煌文化財保存研究・展示センター 研究用機材リスト

[機材内容]

走査型電子顕微鏡	フーリエ変換赤外分光計
X線回折装置	X線透過装置
精密恒湿恒湿器	万能材料試験機
顔料横切装置	紫外・可視光光度計
画像・数値処理装置	多光源分光測色計
示差熱・熱量同時測定装置	顕微鏡カラーテレビ装置
偏光顕微鏡	実体顕微鏡
電子自記温湿度・光照度装置	普通紙複写機
漢・日・英・ワードプロセッサ	プリンター
一眼レフカメラ	蛍光顕微鏡
分光蛍光光度計	ポータブル発電機
映像記録装置	

付表 2-2

敦煌文化財保存研究・展示センター撮影記録用機材リスト

[機材内容]

ビデオ映像用記録装置

カセット テーブ テッキ

自動現像装置

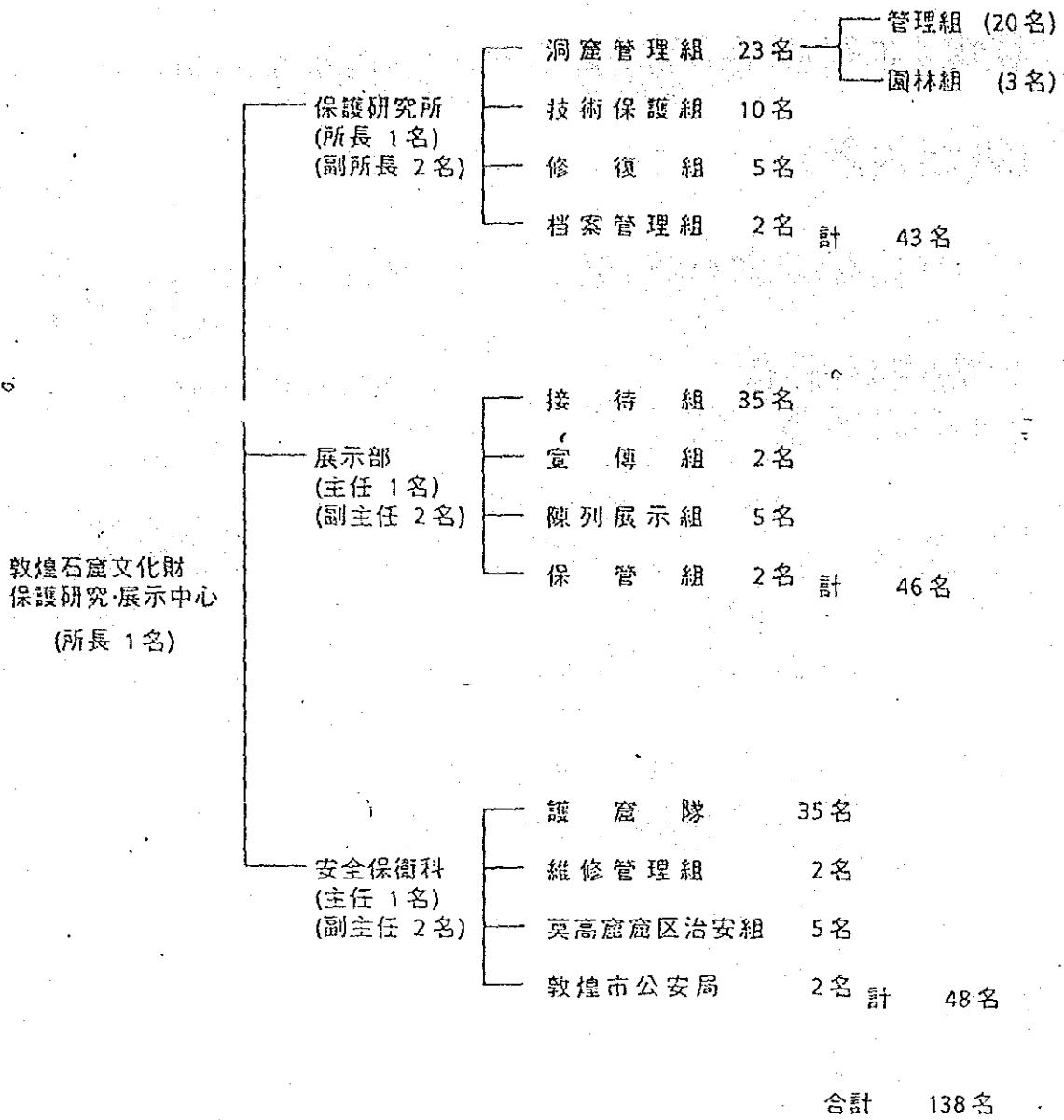
PH測定装置

マイクロコンピュータ装置

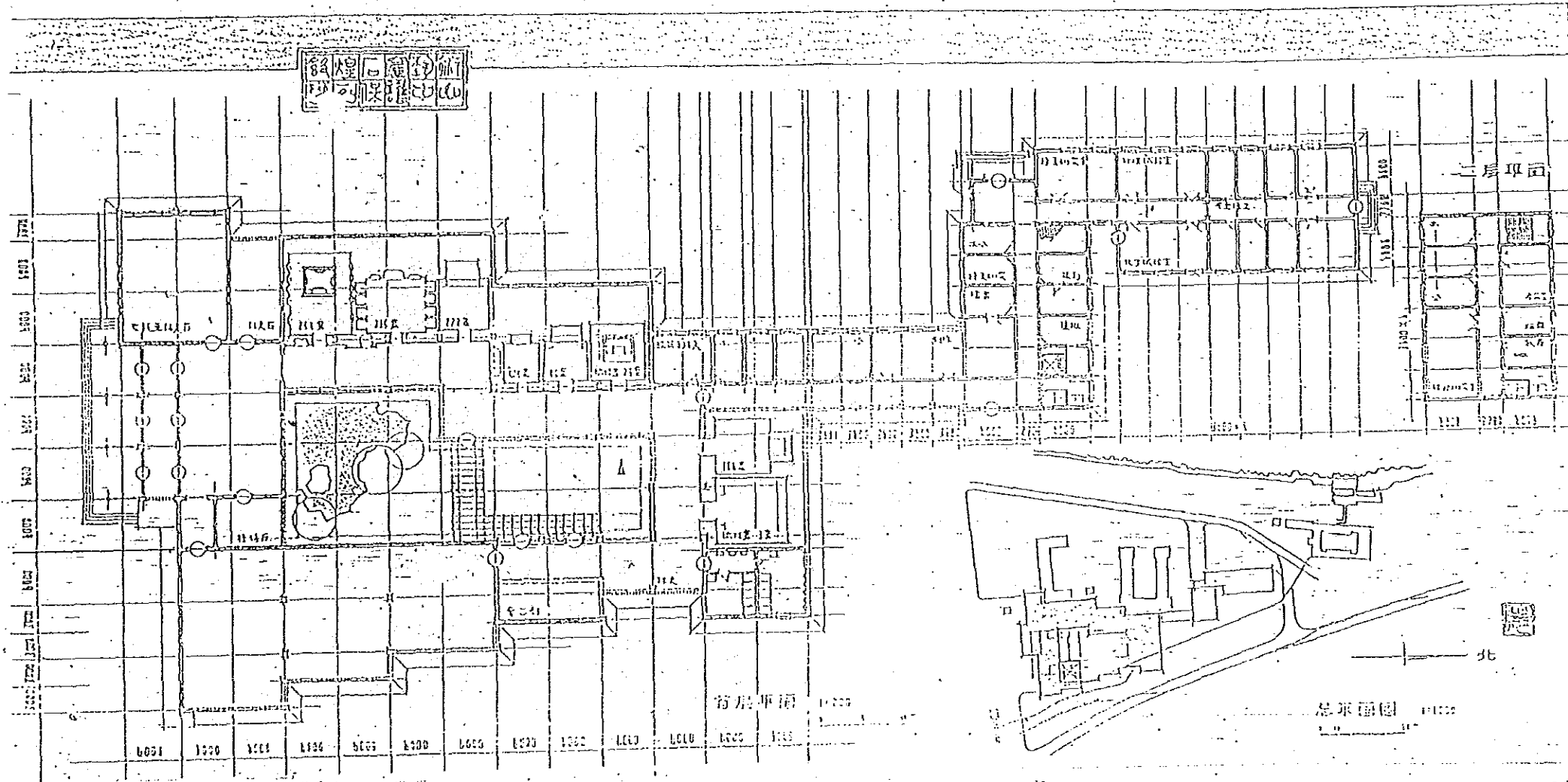
ステールカメラ撮影装置

自動引伸装置

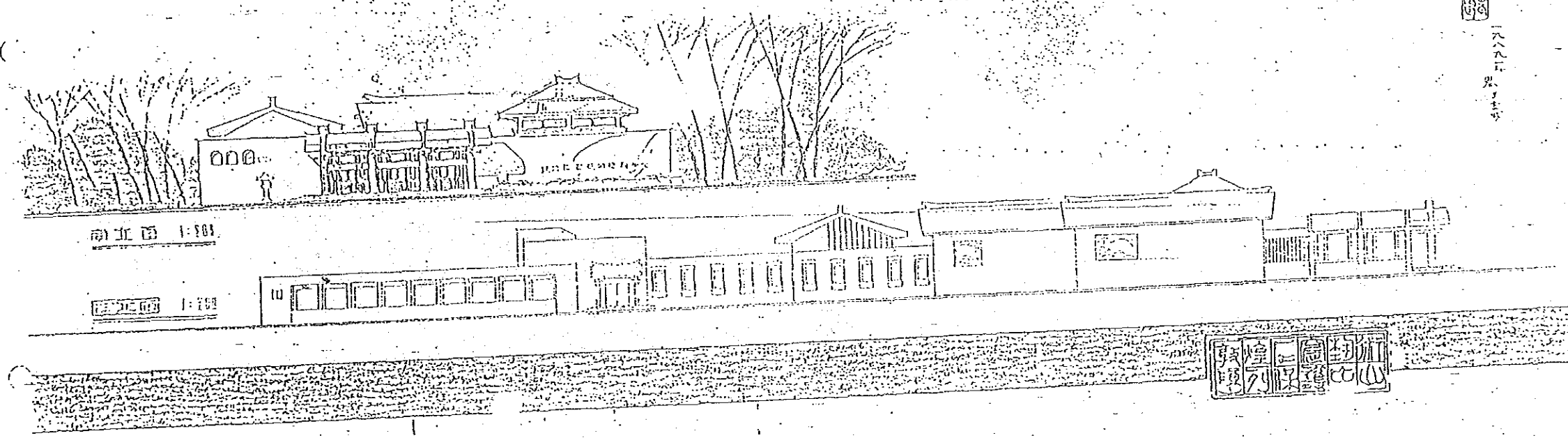
附表-3



附表一



1/500



南正街 1:100

正北街 1:100

一九二九年
吳景超

國立中央研究院
植物研究所

1/500

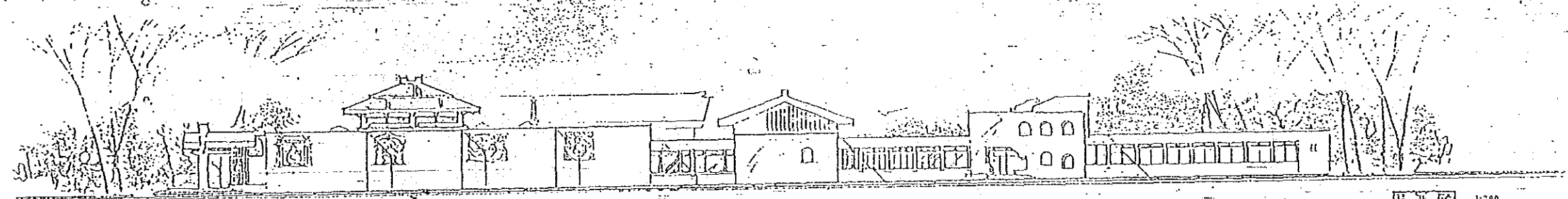
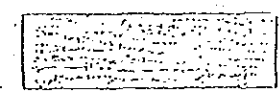
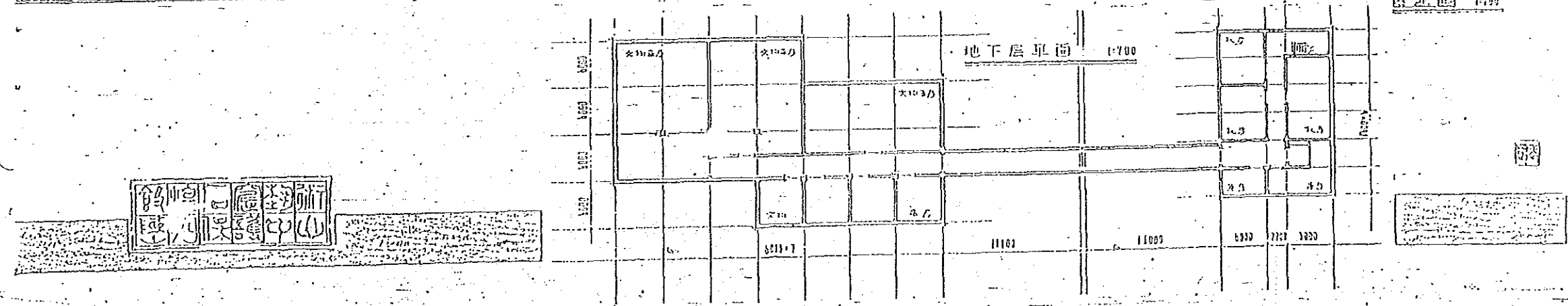


图 21 图 1:700



付表-5

敦煌文化財保護研究・展示センター建設計画
中国側提示の研究所予定研究項目

1. 崖面、水文地理、地質測定研究
2. 地帳(画面下地)材質及び制作工程技術の分析・研究
3. 壁画材料の詳細分析(微量測定)、顔料分析資料の保管(data bank)
4. 壁画顔料の変色、褪色の原因分析と保護処理方法
5. 風化、脆弱化した壁画の修復
6. 剥離現象の修復の研究(壁画)
7. 大面積剥脱進行中の壁画の部分修復の研究
8. 壁画及び粘着剤の分析、老化原因の探究
9. 壁画固定化(安定化)材料の研究
10. 重複(二重等)壁画の測定研究
11. 煤煙で汚染された壁画の煤落としの研究
12. 壁画のデータ処理の研究、洞窟資料の電算処理
13. 榆林窟の崖の安定化の研究
14. 莫高窟に対する気象の影響研究
15. 流砂の処理(砂塵、流砂、風砂)
16. 経巻の保存、修理についての研究

关于中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列 中心建设项目基本设计调查的会谈纪要

根据1988年10月27日《关于中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心建设项目事前调查会谈纪要》，（中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心以下简称《保护研究陈列中心》）日本方面决定进行有关本项目的基本设计调查。并派遣了东京艺术大学美术学部部长平山郁夫教授为团长的调查团访问了中华人民共和国。调查团和敦煌研究院根据《敦煌石窟文物保护研究陈列中心建设项目事前调查会谈纪要》（以下简称《事前调查会谈纪要》）及中国专家在1989年2月27日至3月19日访日期间的会谈，于1989年3月31日至4月4日，在真挚友好的气氛中，就本项目进行了认真的会谈。

甘肃省对外经济贸易委员会、甘肃省文化厅、甘肃省科学技术委员会、甘肃省计划委员会及中国市政工程西北设计院都派员参加了会谈。

兹将此次会谈的结果归纳如下：

1. 本建设项目的目的

双方再次确认了《事前调查会谈纪要》中所记载的内容无变更。

2. 本建设项目的位罝

本建设项目位于甘肃省敦煌市莫高窟区内，具体位置将考虑莫

高湿的环境等，比《事前会谈调查纪要》附表—1的位置向东边作了若干移动，其位置如附表—1所示，但不拆迁用地内的土塔。

3. 实施机关

双方再次确认了《事前调查会谈纪要》中记载的内容无变更。

4. 保护研究陈列中心的组织及人员

调查团确认了附表—3所载中方提出的保护研究陈列中心的组织及人员。

5. 要求的内容

调查团确认了附表—2所载中方对有关设施的建设（包括有关的设备）和保护研究等器材供给的无偿资金援助之要求及其有关设计条件等的希望。

6. 基本设计草案

双方确认将中方专家访日时提出的附表—4所示设计草案作为今后研究概略设计的原始方案。双方还确认了就中方要求的设施器材内容及其面积、数量的必要性、妥当性将进行充分研究。

7. 关于文物保护等的研究课题

调查团确认了附表—5所载中方提出的有关研究课题。关于研究课题的实施须报请中华人民共和国文物专业管理局、甘肃省人民政府文化厅审查批准。

8. 人员交流

双方确认了以《事前调查会谈纪要》的主旨为准则，有关机关

在今后也将为促进工作而努力。

9. 今后的基本设计调查进展

双方确认今后的基本设计调查按如下进度实施

第二阶段的现场调查的实施: 1989年7月上旬—提出中
间报告书(日文本) 10份。
附中文概要。

最终报告书草案说明: 1989年10月上旬—提出最终报
告书草案(日文本) 10份·附中文概要。

提出最终报告书: 1989年12月上旬—提出最终报告书
(日文本) 10份·附中文概要。

10. 中方应采取的措施

双方再次确认了《事前调查会谈纪要》的内容。

11. 无偿资金援助的安排

双方再次确认了《事前调查会谈纪要》的内容。

1989年4月3日

于中华人民共和国 甘肃 敦煌

中华人民共和国
敦煌研究院 院长

段文杰

段文杰

日本国
国际协力事业团
基本设计调查团团长

平山郁夫

平山郁夫

甘肃省对外经济贸易委员会

项目官员

祁世军

祁世军

基本设计调查团副团长

斋藤 泰雄

斋藤泰雄

甘肃省文化厅副厅长

董长河

董长河

参加会谈的还有甘肃省科学技术委员会外事处处长刘德考，
甘肃省计划委员会社会事业处处长杨文健。

中華人民共和國敦煌石窟文化財保存研究・展示センター 建設計画基本設計調査(フェーズII)に係る協議議事録

中華人民共和國敦煌石窟文化財保存研究・展示センター建設計画に係る1988年10月27日付事前調査団協議議事録(以下「事前調査協議議事録」という)及び1989年4月3日付基本設計調査団協議議事録(以下「基本設計調査(フェーズI)協議議事録」という)に基づき、日本側は本計画基本設計調査(フェーズII)の実施を決定し、東京芸術大学学長平山郁夫教授を団長とする調査団を中華人民共和國に派遣した。

調査団と敦煌研究院は、事前調査協議議事録、中国側来日時(1989年2月27日～同年3月19日)における協議及び基本設計調査(フェーズI)協議議事録を踏まえ、1990年5月22日から同年6月5日まで真摯かつ友好的な雰囲気のもと、本計画に関して一連の協議を行なった。

本協議には、对外経済貿易部、国家文物局、甘肅省對外經濟貿易委員会、甘肅省文化庁、甘肅省科学技術委員会、中国市政工程西北設計院の各関係者も参加し、意見の交換を行なった。

この議事録は、これらの結果を取りまとめたものである。

波平

1. 本計画の目的

基本設計調査(フェーズ I)協議議事録に記載された内容に変更のない事を双方確認した。

2. 本計画の予定敷地

中国側より、莫高窟保護、環境保全について懸念が示され、双方で検討の結果、本計画敷地を大泉河東岸の附図-1に示す位置に移動する事に同意した。

3. 実施機軸

基本設計調査(フェーズ I)協議議事録に記載された内容に変更のない事を双方確認した。

4. 基本設計概略案

日本側は中国側に対し、本計画中間報告書の内容について説明した。双方協議の結果、本計画の建物延床面積を4,900㎡から5,000㎡前後として計画する事が同意された。

但し中国側より、日本側提案の概略設計案に対し、下記の点を修正するよう要望があり、今後の作業に於いてこの要望を考慮し基本設計案を作成する事に双方同意した。

- (1) 収蔵庫を設ける事
- (2) 保存研究部門の面積を拡充する事
- (3) 上記(1)、(2)の面積の増加に対しては、主に展示部門面積を縮小して対応する。

沼平

又、中国側より、計画案の作成に当っては、建設地域の持つ環境の自然要素、歴史的要素、地域性を考慮し周囲の景観と調和した計画とするよう要望があり、日本側はこれを知解した。

5. 展示計画

中国側は展示用石窟模型を製作する事を確認し既にその為の作業を開始して居り、施設完成までには、5個の窟の製作を完了する旨表明した。又中国側より模写壁画、出土文物、塑像等の展示方針及び展示方法の提案があり協議を行なった。中国側は別途附表-1に記載した展示器具の供与を要請した。これに対し、日本側は、展示器具は基本的には中国側負担であるが、供与の可能性を検討する為中国国内で製作した場合の費用見積りを至急日本側に提出するよう申し入れ中国側はこれを知解した。

6. 保存研究計画

中国側より、保存研究部門の各室の機能及び機械に關して説明があった。双方協議の結果、今回供与を計画する保存研究機械は附表-2に示す範囲である事を確認した。

7. その他の機材

日本側は第9項に述べるボイラー機材を供与する場合には、車輛の供与は不能である旨を表明した。これに対し、中国側は、日本側が引き続き車輛の供与を検討するよう要望した。日本側はこの要望を検討する旨、回答した。

8. 中国国内建設価格

中国側は、本計画の建設実施にあたって、三材(中国産木材、鋼材、セメント)について、本計画の全必要量を平価にて供給する事を確約した。日本側は、更に建設に必要な労務費その他の費用についても、外国人向け価格を適用しない事を要請し、中国側は前向きな検討を約束した。

9. ボイラー施設

上記第8項の実行を前提とし、日本側は中国側より強く要望されたボイラー機材費を本計画建設予算に包含する事に同意した。

10. 中国側の取るべき措置

(1) 双方は「事前調査協議議事録」に記載された中国側の取るべき措置の内容を再度確認した。

(2) 日本側は、中国側に新しい建設予定敷地の地形(平面高低)測量及び土質調査の実施を依頼し、中国側はこれを了承した。

(3) 又、日本側は、中国側に工事用作業場、監督員事務所、中国側施工会社職員宿舎の提供を要望し、中国側は、これを了承した。

(4) 本計画実施に必要な輸入資機材の中国国内輸送(中国内荷揚げ地より敷地まで)

(5) 展示窟の製作、据付け。

(6) 外構、植栽、家具及び装飾工事

11. 無償資金協力のしくみ

日本側は日本の無償資金協力の制度につき、再度説明し、中国側はこれを了解した。

12. 中国側専門家の来日

日本側は、本年度JICAベースで2名の中国側専門家を受入れる用意があり、時期としては8月が適当である旨説明した。中国側はこれを了解し、同専門家の来日に必要な手続きを早急に進める旨回答した。

13. 今後の基本設計調査工程

今後の基本設計調査は次の工程にて実施していくことを双方確認した。

基本設計調査最終報告書

1990年9月

ドラフト説明

ドラフト報告書(日本文)10部提出

中文要旨添付

基本設計調査最終報告書

1990年11月

の提出

最終報告書(日本文)10部提出

中文要旨添付

1990年6月2日

於 中華人民共和國

甘肅 敦煌

波平

日本国
国際協力事業団
基本設計調査(7-2-II)団長
平山 郁夫

平山郁夫

在中華人民共和国日本国大使館
参事官

小島 高明
小島高明

基本設計調査団(7-2-II)
副団長
横井 裕

横井 裕

中華人民共和国
敦煌研究院 院長

段 文 杰

段文杰

對外經濟貿易部
國際連絡司 司長

王 天 策

王天策

甘肅省對外經濟貿易委員會
外經処 処長

曾 明 沂

曾明沂

甘肅省文化庁 副庁長

馬 文 治

馬文治

會議には、他に 国家文物局、甘肅省科学技術委員会及び中国市政工程
西北設計院の代表が参加した。

附表 - 1

敦煌石窟文化保存研究 展示センター建設計画基本設計調査(フェーズⅡ) 展示施設リスト

中国側の要望のあった展示施設は以下の通りである。

- | | |
|-------------|-----|
| (1) 単独立型ケース | 18台 |
| (2) 単独平型ケース | 10台 |
| (3) 単独置型ケース | 8台 |

以上

附表 - 2

敦煌石窟文化保存研究所・展示センター建設計画基本設計調査(1-1-1) 機械リスト

1. 撮影機材

- (1) VIDEO 撮影装置 1式
カメラ, バッテリーパック, モニター, 三脚, 他
- (2) 編集機材 1式
編集機, モニター, 机
- (3) 複写機材 1式
ビデオデッキ, モニター
- (4) 文字挿入機 1式
挿入機, キーボード, モニター
- (5) カセットテープデッキ (録音再生機) 2台
録音再生機, マイクロフォン
- (6) 光源装置 1セット
光源装置, バッテリーパック, ランプ
- (7) カメラ (写真機) 6x6cm 1台
カメラ本体, 標準レンズ, スムレンズ
- (8) カラー VIDEO コピー 1式
複写機, モニター

2. 資料機材

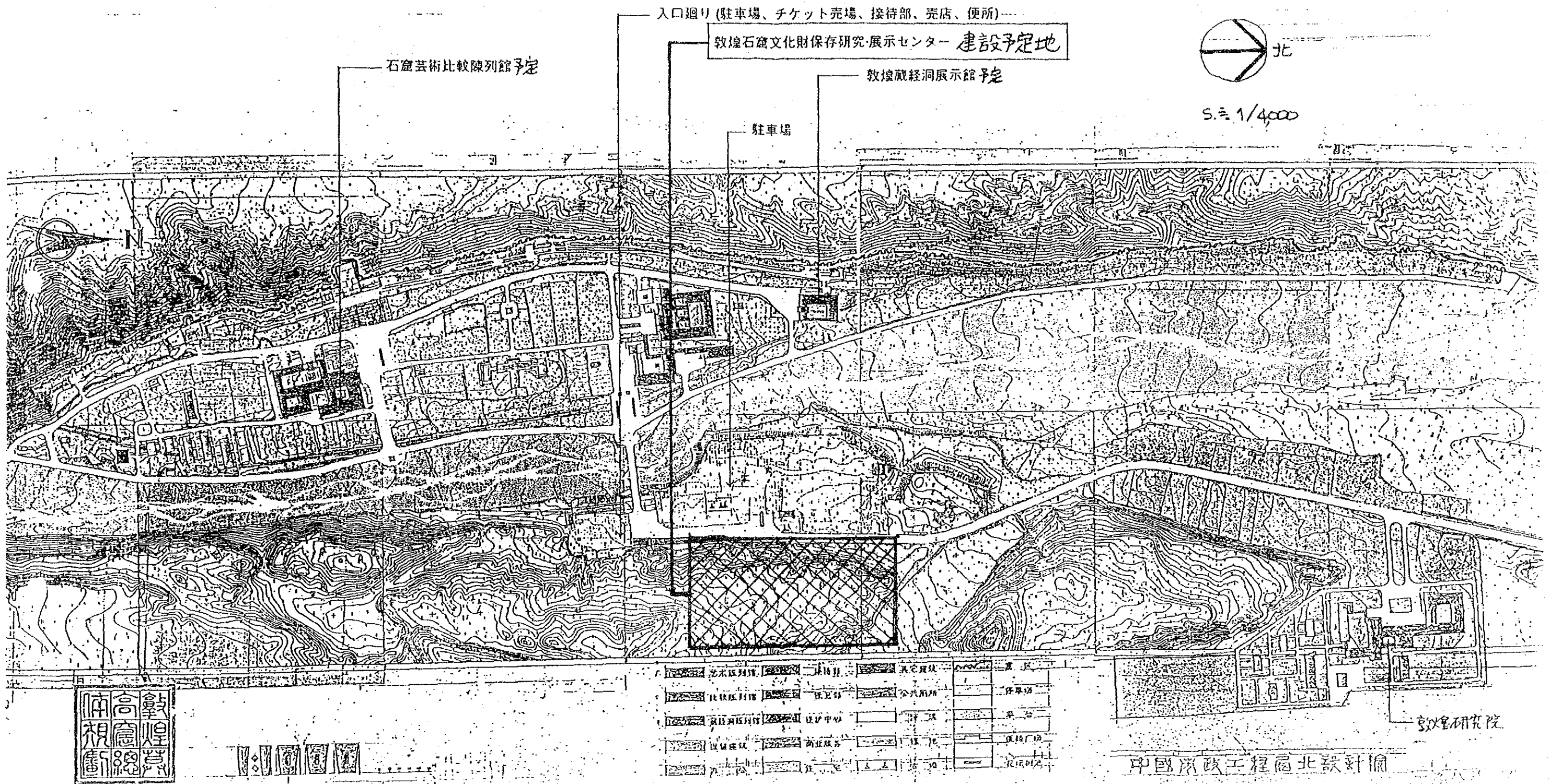
- (1) ワードプロセッサ 1式
パーソナルコンピューター
中国語 ワードプロセッサソフト
日本語 ワードプロセッサソフト
英語 ワードプロセッサソフト
- (2) 乾式複写機 1台
複写サイズ: A3, A4
B4, B5

3. AV室機材

- (1) VIDEO プロジェクション装置 1セット
ビデオプロジェクター, スピーカーシステム
2-24インチ方式ビデオプレイヤー
VHS方式ビデオプレイヤー
モニター
- (2) 16mm フィルム プロジェクション装置 1台
プロジェクター (リモコン付)
- (3) スクリーン 1800mm x 1800mm 1張
- (4) スライド プロジェクション装置 1台
プロジェクター (リモコン付)
- (5) オーバーヘッド プロジェクション装置 1台
- (6) VIDEO 閲覧装置 1セット
3/4 インチ ビデオプレイヤー
1/2 インチ ビデオプレイヤー
モニター 20インチ
モニター 25インチ

右1台

以上



关于中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心建设计划

第二阶段基本设计调查

会谈纪要

根据中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心建设计划、1988年10月27日签定的事前调查团会谈纪要（以下称“事前调查会谈纪要”）以及1989年4月3日签定的基本设计调查团会谈纪要（以下称“第一阶段基本设计调查会谈纪要”），日本方面决定进行第二阶段基本设计调查，并派遣了以东京艺术大学校长平山郁夫教授为团长的调查团访问了中华人民共和国。

敦煌研究院和调查团根据“事前调查会谈纪要”和中方专家赴日考察（1989年2月27日—3月19日）的协议以及“第一阶段基本设计调查会谈纪要”，于1990年5月22日—6月5日，在真挚友好的气氛中，就本项目进行了认真的会谈。

参加这次会谈的还有：对外经济贸易部、国家文物局、甘肃省对外经济贸易委员会、甘肃省科学技术委员会、甘肃省文化厅、中国市政工程西北设计院的代表。

兹将会谈纪要归纳如下：

1. 本计划的目的

双方再次确认了“第一阶段基本设计调查会谈纪要”中所记载的内容无变更。

2. 本计划的预定位置

中方从莫高窟文物保护及环境保护方面考虑，认为原选位置离石窟太近。双方协议结果同意将本计划的用地位置移到大泉河东岸台地上（附图-1所示）。

3. 实施机构

双方再次确认了“第一阶段基本设计调查会谈纪要”中记载的内容无变更。

4. 基本设计概略方案

日方向中方就本计划中间报告书的内容做了说明。双方协议结果，同意将此计划建筑物的总面积定为4900m²至5000m²左右。

中方希望日方对所提的概略设计方案作以下几点修改，双方同意在今后制定基本设计方案的工作中充分考虑这些要求。

(1) 增设文物库房。

平

股

(2) 扩充保护研究部门的面积。

(3) 缩小陈列面积，增加上述(1)(2)的面积。

同时，中方要求设计方案要充分考慮建设地区的环境因素、自然因素、历史因素、地方特点与周围景观协调。日方对此表示理解。

5. 陈列计划

中方承担陈列用的石窟模型制作。这项工作现已开始。在中心竣工之际，中方应完成八个洞窟模型的制作。同时，中方对出土文物、临摹壁画、塑像等的陈列方针和方法提出方案。日方认为，陈列用具基本上由中方负担。对此，中方要求提供附表-1所记载的陈列用具。为了研究提供的可能性，日方要求中方尽快提交在中国国内制作的估价单，中方对此表示了解。

6. 保护研究计划

中方向日方说明有关保护研究部门各室的功能和器材。双方协议的结果，确认这次提供的有关保护研究器材限于附表-2所示的范围。

7. 其它器材

日方表明在提供第9项所述锅炉房器材时，不再提供车辆。对此，中方希望日方对供给车辆问题继续讨论。日方同意就此讨论。

8. 中国国内建设价格

中方同意在本计划实施过程中，以平价提供本计划所需要的全部三材（中国产木材、钢材、水泥）。

日方进一步要求对建设中必要的劳务费及其它费用，不要以对外国人的价格来对待。中方同意就此做积极的商讨。

9. 锅炉房设施

以上述8项的实施为前提，日方同意将中方强烈要求的锅炉房器材费列入本计划的建设预算项目。

10. 中方应采取的措施

(1) 双方再次确认了“事前调查会谈纪要”中所记载的中方应采取的措施内容。

(2) 日方委托中方提供新的建设预定用地的地形（平面、高程）测量图及地质调查报告，中方表示同意。

(3) 日方要求中方提供工程作业场、监理人员办公室、中方施工公司职工宿舍，中方表示同意。

(4) 本计划实施过程中所需要的进口材料和器材的中国国内运输（从中国国内卸货地点到工程用地）。

(5) 陈列洞窟模型的制作及安装

平

股

(6) 建筑物外部环境、植树、家具及陈设。

11. 无偿资金的援助程序

日方对日本的无偿资金协力制度做了再次说明，中方表示了解。

12. 中方专家的访日

日方准备在本年度通过JICA途径，邀请二位中方专家访日。日方认为八月份最合适。

中方表示了解，并尽快研究。

13. 今后的基本设计调查进程

双方确认今后的基本设计调查工作以如下的进程来实施：

“基本设计调查最终报告书草案说明”

1990年9月，提出10份草案报告书（日文），添加中文要旨。

“基本设计调查最终报告书”

1990年11月，提交10份最终报告书（日文），添加中文要旨。

1990年6月2日

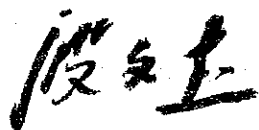
于中华人民共和国甘肃敦煌

采

殿

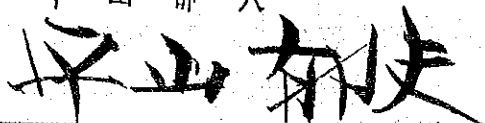
中华人民共和国
敦煌研究院院长

段文杰



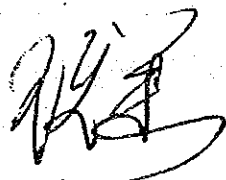
日本国国际协力事业团
第二阶段基本设计调查团团长

平山郁夫




对外经济贸易部
国际联络司司长

王天策



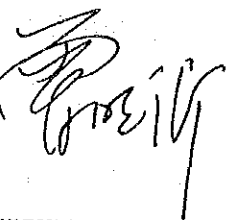
日本国驻中华人民共和国大使馆参赞

小岛高明



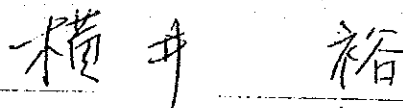
甘肃省对外经济贸易委员会
外经处处长

曾明沂



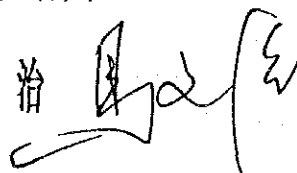
第二阶段基本设计调查团副团长

横井裕



甘肃省文化厅副厅长

马文治



参加会谈的还有国家文物局、甘肃省科学技术委员会及中国市政工程西北设计院的代表。



附表 1

敦煌石窟文物保存研究陈列中心建设项目基本设计
调查（第一期）陈列器材清单

中方要求的陈列器材如下：

- | | |
|----------|------|
| (1) 单独立柜 | 18 台 |
| (2) 单独平柜 | 10 台 |
| (4) 单独台座 | 8 台 |

附表 2

敦煌石窟文物保存研究陈列中心器材清单

1、视频影象记录装置

- (1)VIDEO 摄影装置 1 套
摄象机、电池盒、监视器、三脚架、其它
- (2)编辑装置 1 套
编辑机、监视器、机架
- (3)复制机 1 套
录象机、监视器
- (4)字幕机 1 套
微机、键盘、监视器
- (5)录音机 2 台
录音机、麦克风
- (6)冷光源装置 1 套
光源、灯具、电池盒
- (7)照相机 (6 × 6 ^{CM}) 1 套
机身、标准镜头、变焦镜头
- (8)彩色印象机 1 套
机身、监视器

2、资料器材

- (1)字处理机 1 台
个人计算机
日文字处理机
中文字处理机
英文字处理机
- (2)复印机 1 台
复印尺寸: A3、A4
B4、B5

3、AV室器材	1套
(1)VIDEO投影机	
录象机、扬声器系统	
U-matic方式录象机	
VHS方式录象机	
监视器	
(2)16mm电影放映机	1套
机架(带遥控)	
(3)银幕1800mm×1800mm	1台
(4)幻灯机	1台
机架(带遥控)	
(5)实物投影幻灯机	1台
(6)视频阅读装置	1套
3/4录象机	1台
1/2录象机	1台
20"监视器	1台
25"监视器	1台

中華人民共和国敦煌石窟文化財保存研究・展示センター

建設計画基本設計調査最終報告書ドラフト説明協議に係る

協議議事録

中華人民共和国敦煌石窟文化財保存研究・展示センター建設計画（以下「本計画」という。）に関し、日本国国際協力事業団は、外務省経済協力局無償資金協力課長斎藤泰雄氏を団長とする最終報告書ドラフト（以下「報告書草案」という。）説明のための調査団（以下「調査団」という。）を1990年9月28日から10月9日まで中華人民共和国に派遣した。

調査団は敦煌研究院において中国側関係者に報告書草案を提出して説明を行ない、双方は真摯かつ友好的な雰囲気のもと、一連の協議を行なった。

本協議には甘肅省對外經濟貿易委員会、甘肅省文化庁、中国市政工程西北設計院の各関係者も参加し、意見交換を行なった。

この議事録は、これらの結果を以下のとおり取纏めたものである。

1990年10月6日

於：中華人民共和国

甘肅省 敦煌

斎藤

10

別紙

1. 中国側は、日本側が提示した報告書草案の内容について基本的に同意の上、謝意を表した。
2. 中国側は、以下の施設の計画について更に日中双方が検討を行いたい希望し、日本側は右に同意した。
 - (1) 瀾のデザインについては、之をさらに発展する等。
 - (2) 飛示ロビー上部屋根については、さらに中国的印象を与えるデザインを加味する等。
 - (3) 研究部内、管理部内諸室の部屋の開口を大きくする等。但し、床面積の増加を抑えるため、部屋の奥行を減少しても良い。
3. 中国側は、本計画を円滑に実施するため、以下の車輛の提供方を再度要望し、日中双方協議の結果、日本側は右のものを好意的に検討したい旨表明した。
 - (1) マイクロバス 1台
 - (2) 四輪駆動車(ランドクルーザータイプ) 1台
 - (3) ポリマー・トラック(5~6人乗) 1台
4. 中国側は、三枝(中国産木枝、銅枝、セメント)について、本計画の全必要量を平価にて供給することを再確認することには、建設に必要な労務費その他の費用についても外国人価額を適用しないよう前向きに検討を再度約束した。
5. 日中双方は、本件の中国側の実施体制について以下の通り確認した。
 - (1) 実施機関は敦煌研究院である。
 - (2) 国家レベルの統括管理部門は中華人民共和国对外经济贸易部である。甘肅省レベルの主管部門は甘肅省对外经济贸易委員会であり、業務主管部門は甘肅省文化庁、調整部門は甘肅省科学技术委員会である。

b. 日中双方は、報告書草案に記載されているそれぞれが負担する区分別の
とるべき措置を確認したとともに、本計画が実施される時には、右
とるべき措置を履行する事を約束した。

112

113

日本国
国際協力事業団
基本設計調査団 団長
奈藤泰雄

奈藤泰雄

中華人民共和國
敦煌研究院 院長

段文杰 段文杰

甘肅省對外經濟貿易委員會
項目官員

高西氏 高西氏

甘肅省文化庁
副庁長

馬文治 馬文治

段

关于中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心 建设项目基本设计调查、说明最终报告书草案的会谈纪要

关于中华人民共和国敦煌石窟文物保护研究陈列中心建设计划（以下简称〈本计划〉）、日本国国际协力事业团从1990年9月28日至10月9日派遣了外务省经济协力局无偿资金协力课长斋藤泰雄为团长的说明最终报告书草案（以下简称〈报告书草案〉）的调查团（以下简称〈调查团〉）。

调查团在敦煌研究院，向中方有关人员提出报告书加以说明，双方在真挚友好的气氛中进行了一系列的会谈。

甘肃省对外经济贸易委员会、甘肃省文化厅及中国市政工程西北设计院都派人参加了会谈。兹将此次会谈的结果归纳如下：

1. 中方对日方所提出的报告书草案的内容表示基本上的同意和谢意。
2. 中方希望关于下述的设施计划，由双方来进一步商讨，日方表示同意：

(1)关于阙的设计，要进一步改进。

(2)关于陈列大厅屋顶的设计，要进一步体现中国建筑的传统风貌。

(3)扩大研究部门、管理部门等房间的宽度，但为了控制总面积，可以减少深度

3. 中方为了顺利地实施本计划，再次的希望提供下述车辆，双方协商的结果，日方表示对此积极的商讨。

(1)面包车 1 辆

(2)越野车 1 辆

(3)客货两用车 1 辆

4. 再次确认，中方以平价提供本计划所需要的全部三材（中国产木材、钢材、水泥），同时建设中必要的劳务费及其它费用也不以外国人价格对待的方向，积极的商讨。

5. 双方确认本计划的中方实施体制如下：

(1)实施单位：敦煌研究院

(2)国家归口管理部门：中华人民共和国对外经济贸易部

省内归口管理部门：甘肃省对外经济贸易委员会

省内业务主管部门：甘肃省文化厅

省内协调部门：甘肃省科学技术委员会

6. 双方确认, 报告书上所记载的各自承担的工程范围和应采取的措施, 以及同意在实施本计划时要实行各自应采取的措施。

1990年10月6日

于中华人民共和国甘肃敦煌

中华人民共和国
敦煌研究院院长

段文杰 *段文杰*

日本国

国际协力事业团

基本设计调查团团长

斋藤泰雄

甘肃省对外经济贸易委员会
项目官员

高西民 *高西民*

斋藤泰雄

甘肃省文化厅

副厅长

马文治 *马文治*

現地条件

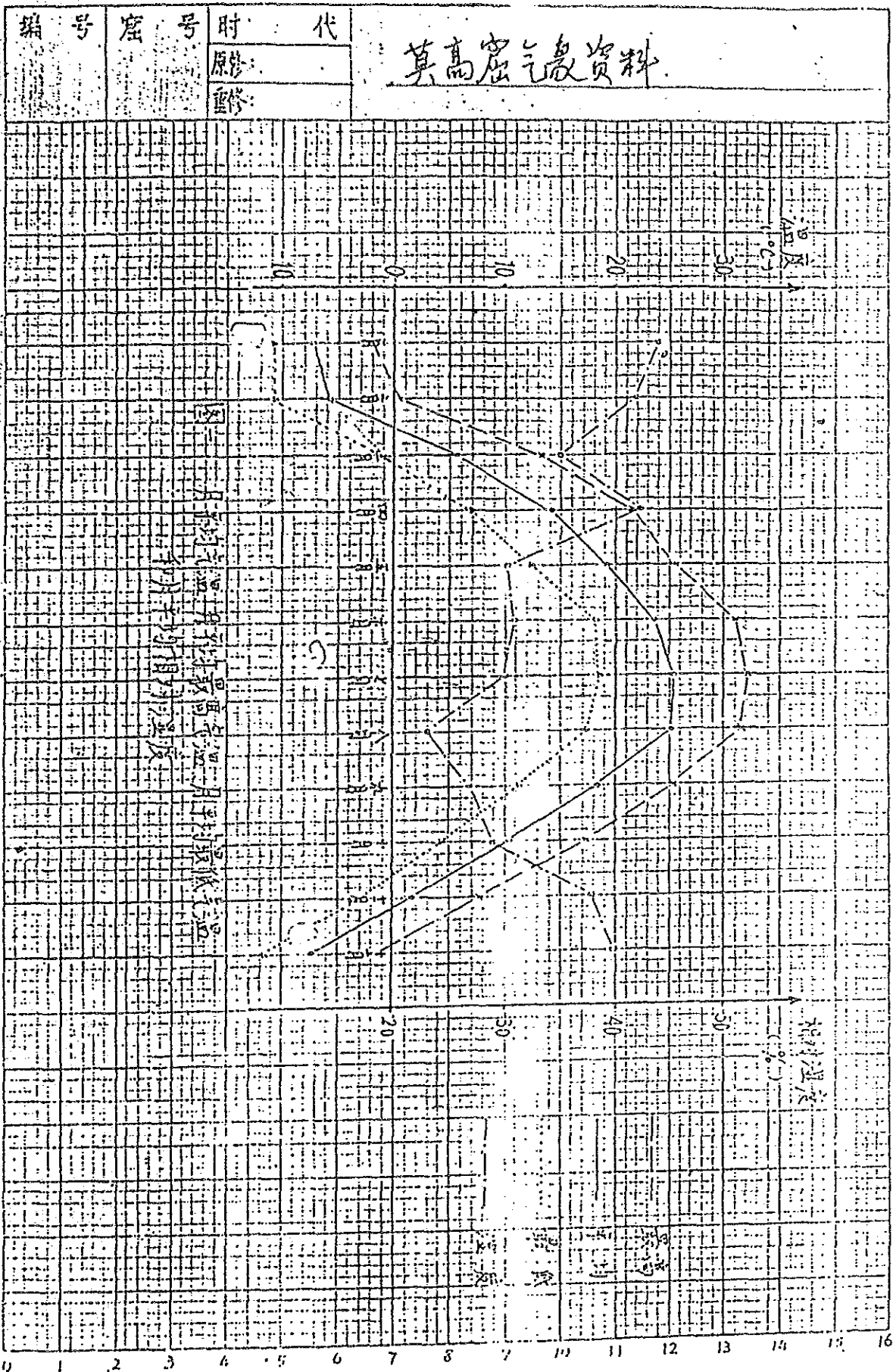
気象

水質

土質

インフラ施設

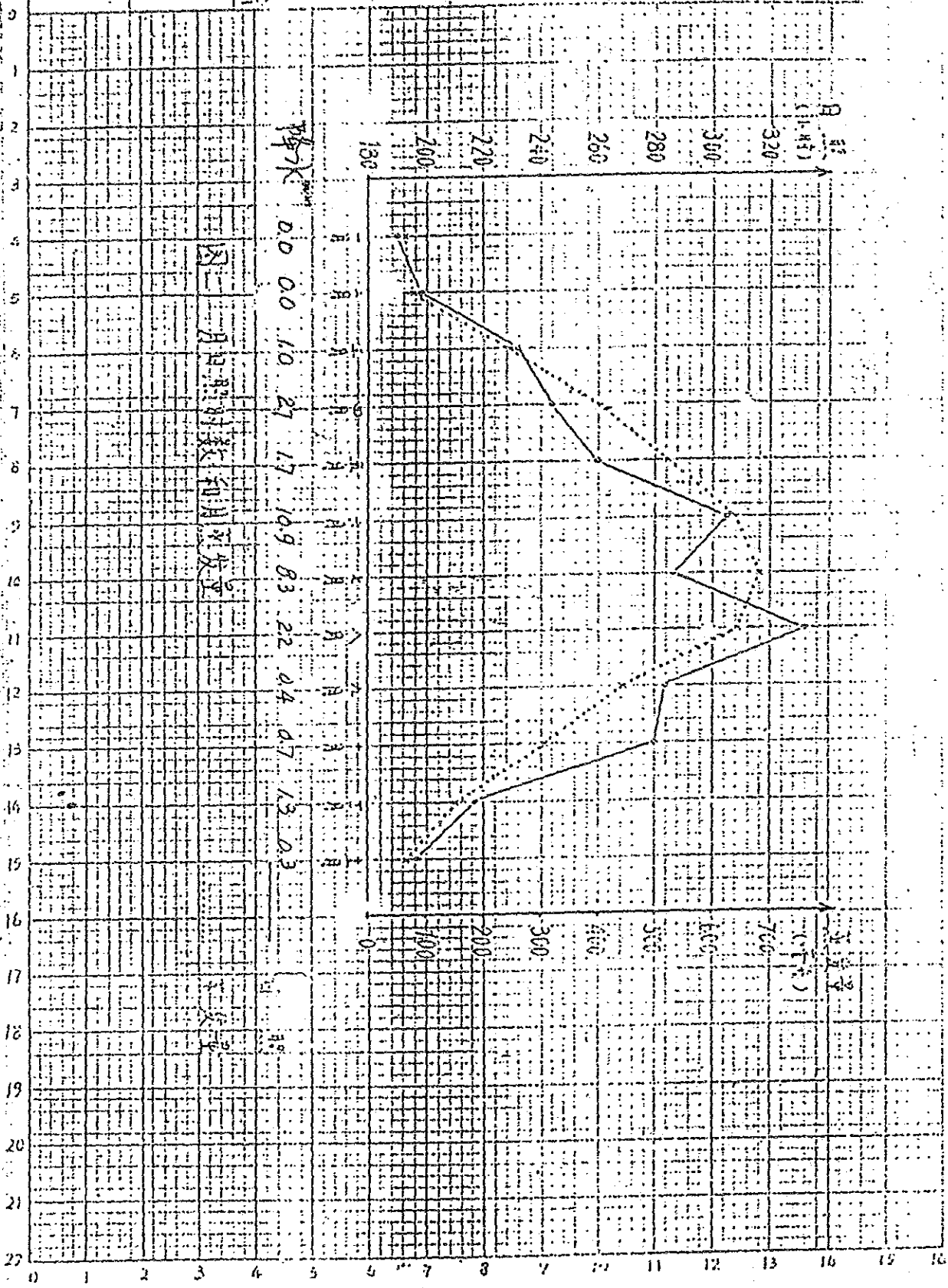
敦煌文物研究所



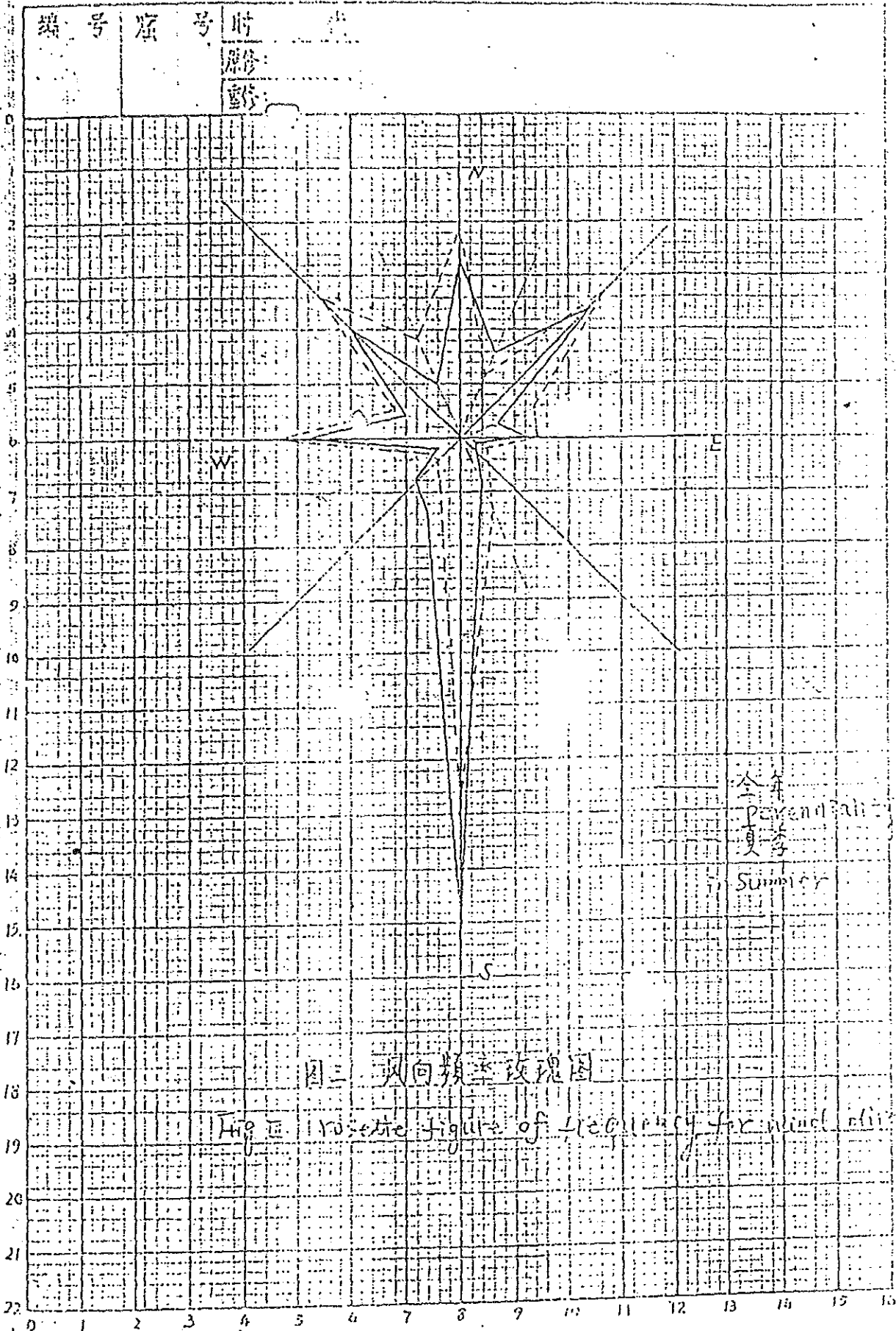
敦煌文物研究所

编号 窟号 时代

原室



敦煌文物研究所



图三 风向频率玫瑰图

Fig. 3. Roseate figure of frequency for wind direction

全年
Perennial
夏季
Summer

请打印 孙份 孙份(同)

敦煌文物研究所

敦煌附近历年地震情况

莫高窟地理座标：北纬40°03'，东经94°49'

发震时间			震中位置		震级 Ms	地名
年	月	日	北纬	东经		
756	11	27	39°00'	100°30'	6	张掖
1607	7	11	39°12'	99°00'	6 $\frac{3}{4}$	酒泉东南
1785	4	18	39°54'	98°00'	6	玉门东北
1927	5	23	37°36'	102°36'	8	古浪
1932	12	25	39°42'	97°00'	7 $\frac{1}{2}$	玉门马昌
1933	7	11	40°30'	96°00'	5 $\frac{1}{4}$	安西
1935	11	30	39°00'	94°00'	5 $\frac{1}{2}$	青海苏干湖
1937	3	9	40°30'	91°30'	4 $\frac{1}{4}$	金塔鼎新
1939	6	16	41°00'	94°30'	5 $\frac{1}{4}$	敦煌柳园
1948	7	16	41°00'	94°30'	4 $\frac{1}{2}$	敦煌柳园
1951	12	27	39°36'	95°42'	6	肃北东
1952	1	23	39°48'	95°12'	5 $\frac{1}{2}$	肃北东北
1952	2	6	39°54'	95°12'	5 $\frac{1}{2}$	肃北东
1956	10	27	39°36'	99°00'	4 $\frac{3}{4}$	酒泉东
1957	1	17	40°30'	98°00'	4 $\frac{1}{4}$	玉门北

敦煌文物研究所

发震时间			震中位置		震级	地名
年	月	日	北纬	东经	M _s	
1962	9	11	39°00'	93°00'	4.7	青海冷湖镇
1964	9	2	40°35'	94°50'	0.7	敦煌北
1969	1	12	40°06'	94°12'	2.3	敦煌西
1970	1	24	40°03'	95°08'	1.9	敦煌东
1970	6	9	39°52'	94°35'	2.6	敦煌南
1971	4	17	40°36'	94°36'	3.0	敦煌北
1972	3	21	40°14'	95°12'	2.5	敦煌东
1973	6	9	39°42'	95°30'	4.7	南北北
1975	9	13	41°01'	93°09'	3.2	敦煌西北
1977	3	30	39°52'	94°58'	3.7	敦煌东南
1977	5	22	39°55'	95°20'	3.4	敦煌东南
1980	6	1	39°00'	95°52'	5.9	南北东南
1982	2	2	40°33'	94°39'	3.2	敦煌

资料来源:

1. “中国地震目录” 第一~四册合订本. 科学出版社. 1971年.
2. “陕甘宁青四省(区)强地震目录”. 国家地震局兰州地震研究所编.
3. “陕甘宁青地震目录”. 国家地震局兰州地震研究所编.

一. 历年各月平均降水量, 平均相对湿度, 蒸发量 (63-65年数字平均), 日照时数

项目 \ 月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年
降水量 (MM)		00	10	27	17	109	83	22	104	07	13	03	295
相对湿度 (%)	41	36	32	37	30	34	32	28	26	28	33	43	33
蒸发量 (MM)	1619	2225	2957	2891	5525	6374	6839	6445	4505	3166	1502	1729	
日照时数 (时)	280	2050	2153	2266	2557	3114	2888	3125	2778	2703	2171	2023	30008

1947年
最高 95.4
1956年
最低 6.4

二. 历年各月平均风速 (M/s)

项目 \ 月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年
63-65年	28	27	41	42	43	41	39	40	30	29	33	25	32

三. 历年各月平均气温, 极端气温 (63-65年数字)

项目 \ 月	一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	全年
平均气温 °C	-7.3	-4.5	6.6	13.1	19.4	23.7	25.6	25.1	18.7	10.9	2.1	-6.9	10.5
平均最高气温 °C	-1.0	2.1	13.9	20.2	26.0	30.7	32.4	31.7	25.2	17.5	8.0	-0.8	32.4
平均最低气温 °C	-11.0	-9.9	0.6	6.1	12.7	17.4	18.6	17.5	11.7	4.7	-2.6	-11.1	-11.1
绝对最高气温 °C	67	111	233	288	335	360	406	365	32	23	160	59	406
绝对最低气温 °C	-19.2	-20.7	-12.0	-5.4	4.1	8.4	12.2	10.4	7.3	-2.4	-12.7	-19.2	-20.7

試料名 中国より搬入の水
 受入日 平成元年 4月19日
 分析期間 平成元年 4月19日～平成元年 4月22日

項目別検査記録

検査の対象	試料名 単位	莫高窟区域内水栓 生活用河川水 (16.0)	敦煌研究院内 飲料井戸水 (14.5)	定量限界
pH (水温)	(°C)	8.01	8.03	-
総硬度	mg/l	530	250	0.5
色度	度	3	3	0
濁度	度	2	定量限界未満	1
塩素イオン	mg/l	430	50	0.1
硫酸イオン	mg/l	690	110	10
蒸発残留物	mg/l	2000	480	-
硝酸性窒素	mg/l	1.78	1.25	0.08
過マンガン酸 カリウム消費量	mg/l	1.4	1.3	0.1
銅	mg/l	定量限界未満	0.04	0.01
亜鉛	mg/l	0.006	0.04	0.005
カドミウム	mg/l	定量限界未満	定量限界未満	0.005
鉛	mg/l	0.02	定量限界未満	0.01
鉄	mg/l	0.25	定量限界未満	0.05
マンガン	mg/l	0.01	定量限界未満	0.01
全クロム	mg/l	定量限界未満	定量限界未満	0.01
ナトリウム +カリウム	mg/l	460	87	0.1

検査方法
 上水試験方法 (1985年版) - 日本水道協会

水質基準に関する省令（昭和53年8月31日厚生省令第56号）

法第4条第1項第1号に掲げる用件

- 硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素…… 10 mg/l以下であること
- 塩素イオン…… 200 mg/l以下であること
- 有機物等（マンガン、カリウム濃度）…… 10 mg/l以下であること
- 一般細菌…… 1mlの検水で形成される菌数が100以下であること
- 大腸菌群…… 検出されないこと

法第4条第1項第2号に掲げる用件

- シアンイオン…… 検出されないこと
- 水銀…… 検出されないこと
- 有機リン…… 検出されないこと

法第4条第1項第1号に掲げる用件

- 銅…… 1.0 mg/l以下であること
- 鉄…… 0.3 mg/l以下であること
- マンガン…… 0.3 mg/l以下であること
- 亜鉛…… 1.0 mg/l以下であること
- 鉛…… 0.1 mg/l以下であること
- 六価クロム…… 0.05 mg/l以下であること
- カドミウム…… 0.01 mg/l以下であること
- ヒ素…… 0.05 mg/l以下であること
- フッ素…… 0.8 mg/l以下であること
- カルシウム、マグネシウム等（酸）…… 300 mg/l以下であること
- 蒸発残留物…… 500 mg/l以下であること
- フェノール類…… フェノール0.005 mg/l以下であること
- 陰イオン界面活性剤…… 0.5 mg/l以下であること

法第4条第1項第1号に掲げる用件

- pH値…… 5.8以上8.6以下であること

法第4条第1項第1号に掲げる用件

- 臭気…… 異常でないこと
- 味…… 異常でないこと

法第4条第1項第1号に掲げる用件

- 色度…… 5度以下であること
- 濁度…… 2度以下であること

備考

シアンイオン、水銀及び有機リンについての「検出されないこと」とは、別表に定める方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

生活饮用水水质标准

项 目	标 准
感官性状和一般化学指标	色 色度不超过15度，并不得呈现其他异色 浑浊度 不超过3度，特殊情况不超过5度 臭和味 不得有异臭、异味 肉眼可见物 不得含有 pH 6.5~8.5 总硬度（以碳酸钙计） 450 mg/L 铁 0.3 mg/L 锰 0.1 mg/L 铜 1.0 mg/L 锌 1.0 mg/L 挥发酚类（以苯酚计） 0.002 mg/L 阴离子合成洗涤剂 0.3 mg/L 硫酸盐 250 mg/L 氯化物 250 mg/L 溶解性总固体 1000 mg/L
毒理学指标	氟化物 1.0 mg/L 砷化物 0.05 mg/L 砷 0.05 mg/L 硒 0.01 mg/L 汞 0.001 mg/L 镉 0.01 mg/L 铬（六价） 0.05 mg/L 铅 0.05 mg/L 银 0.05 mg/L 硝酸盐（以氮计） 20 mg/L 氯仿* 60 µg/L 四氯化碳* 3 µg/L 苯并（a）比* 0.01 µg/L 滴滴涕* 1 µg/L 六六六* 5 µg/L
细菌学指标	细菌总数 100 个/ml 总大肠菌群 3 个/L 游离余氯 在与水接触30min后应不低于0.3 mg/L；集中式给水出厂水应符合上述要求外；管网末梢水不应低于0.05 mg/L
放射性指标	总α放射性 0.1 Bq/L 总β放射性 1 Bq/L

水质分析报告

报告编号 057

化验室编号
送样单位
送样日期及地点

水样名称
水样来源
水样深度
水温

占北、试坑号
水源类别
工程名称
气温

采样日期 1984年8月18日
分析日期
完成日期 1984年8月21日
报告日期

悬浮物	颜色、色度 (铂)	臭	PH
沉淀物	口味 (铂)	透明度	6.79

项目	含量		项目	含量	放射性同位素	名称	符号	毫克/升	居里/升
	mc/l	mg/l							
Na ⁺ + K ⁺		386.81	总酸度		断片				
Ca ²⁺		100.04	无机酸酸度						
Mg ²⁺		53.75	CO ₃ ²⁻ 成度		1				
Fe ²⁺ 总铁		0.02	HCO ₃ ⁻ 成度		2				
Mn ²⁺			总成度	1.85	3				
Al ³⁺			碳酸盐	1.85	4				
NH ₄ ⁺			非碳酸盐	7.55	5				
Zn ²⁺			负成度	0	6				
Cu ²⁺			总成度	9.40	7				
Pb ²⁺			项目	含量	8				
Ba ²⁺				mg/l	9				
Hg ²⁺			CO ₂ 游离	20.09	10				
As ³⁺			CO ₂ 化合		11				
Cr ³⁺			KMnO ₄ 消耗量		12				
Cr ⁶⁺			溶解氧		13				
			H ₂ S	0	14				
					15				
					16				
阳离子总计					17				

CO ₃ ²⁻		10.80	分析意见:
HCO ₃ ⁻		93.97	
Cl ⁻		370.98	
SO ₄ ²⁻		502.3	
NO ₃ ⁻			
NO ₂ ⁻			
F ⁻		15.8	
PO ₄ ³⁻		20.00	
阴离子总计			
总硬度		1245.04	
总碱度			mg/l



饮用井水

水质分析报告

4/11/84

取样的地点

报告编号 02

采样编号: _____ 占孔、试坑号: _____ 采样日期: 1984年8月17日
 送样单位编号: _____ 水源类别: 井水 取样深度: 23.0 M 分析日期: _____ 年 ____ 月 ____ 日
 送样单位: _____ 工程名称: 井水化验 完成日期: 1984年8月21日
 取样的地点: 文德路... 水温: _____ °C 报告日期: _____ 年 ____ 月 ____ 日

悬浮物: _____ 颜色、色度: _____ 臭气: _____
 沉淀物: _____ 口味: _____ 浑浊度: _____ pH: 6.92

项目	含量		项目	含量	放射性同位素	放射性同位素	
	me/l	mg/l				名称	符号
Na ⁺ +K ⁺	X	189.16	总酸度				
Ca ⁺⁺		58.52	无机酸度				
Mg ⁺⁺		49.73	CO ₃ 碱度				
Fe 总的			HCO ₃ 碱度				
Mn ⁺⁺			总碱度	0.80			
Al ⁺⁺⁺			硫酸盐	0.80			
NH ₄ ⁺			非硫酸盐	0.20			
Zn ⁺⁺			负碱度	0			
Cu ⁺⁺			及总碱度	7.00			
Pb ⁺⁺			项目	含量			
Ba ⁺⁺				me/l			
Hg ⁺⁺			CO ₂ 游离	19.80			
As ⁺⁺			CO ₂ 总碱度				
Cr ⁺⁺			KMnO ₄ 消耗量				
Cr ⁺⁺⁺			溶解氧				
			H ₂ S	0			
			SiO ₂				
阳离子总计							

项目	含量	分析意见
CO ₃ ⁺⁺	0	分析意见:
HCO ₃ ⁻	57.97	
CL ⁻	194.99	
SO ₄ ⁺⁺	429.3	
NO ₃		
NO ₂		
F ⁻		
阴离子总计		
溶解性固体	688.18 mg/l	

(X) 2

试验室(组)负责人: _____ 审核: _____ 日期: _____

水质分析报告

(交通部第一设计院)

实验室编号	占孔、试坑号	取样日期	年	月	日
工程名称	水渠类别	取样深度	分析日期	1980	年 2 月 15
井里程及地点	工程名称	水温	完成日期	1980	年 2 月 15
最高水位	水 温	°C	报告日期		年 月 日

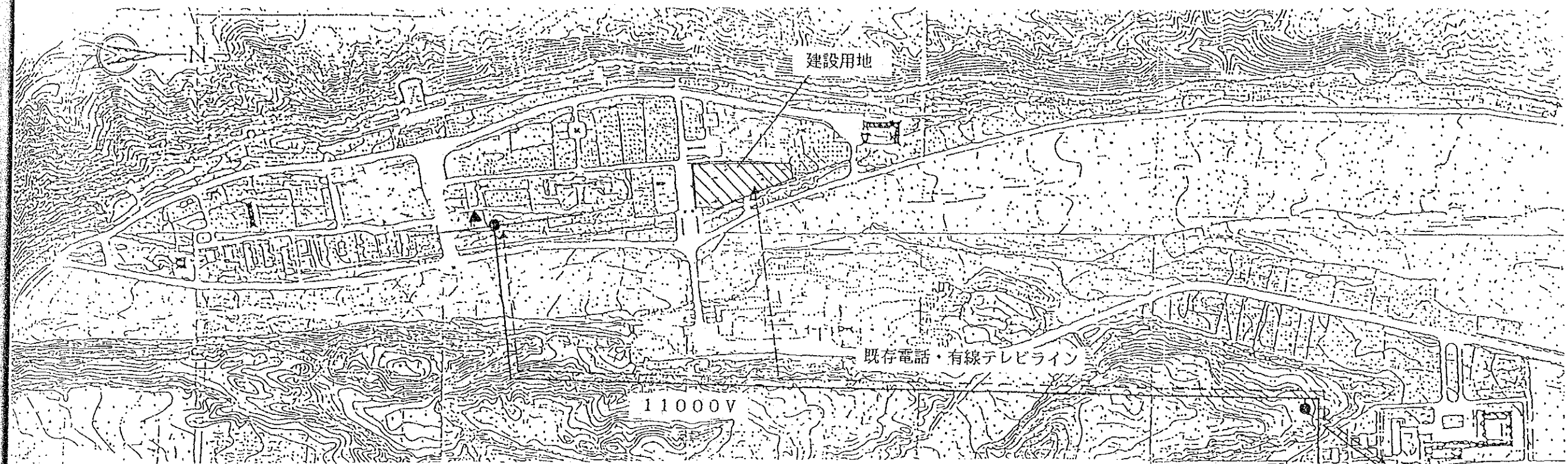
颜色、色度	浊度	臭	pH
无	无	无	8.25

项 目	含 量		项 目	含 量	顺 序	注 意 事 项
	mg/l	me/l				
Na ⁺ +K ⁺	462.38		总 酸 度		1	
Ca ²⁺	142.28		无 机 酸 度		2	
Mg ²⁺	85.16		CO ₃ ²⁻ 碱 度	0.60	3	
Fe 总铁	0.035		HCO ₃ ⁻ 碱 度		4	
Mn ²⁺	0.01		总 碱 度	3.92	5	
Al ³⁺	10.001		硬 度	3.92	6	
NH ₄ ⁺	0.04		非 碳 酸 盐	10.18	7	
Zn ²⁺	0.02		负 电 荷	0	8	
Cu ²⁺	0.10		电 荷	14.10	9	
Pb ²⁺	0.01		项 目	含 量	10	
DO			mg/l		11	
Hg	0.0		CO ₂ 游 离	11.20	12	
As	0.0		CO ₃ ²⁻ 硬 度		13	
Cr ³⁺			(KMnO ₄) 消耗量	1.39	14	
Cr ⁶⁺	0.0		溶 解 乳		15	
H ₂ S	0.22		H ₂ S	0.0	16	
SiO ₂	0.92		SiO ₂	11.00	17	
阴 离 子 总 计						

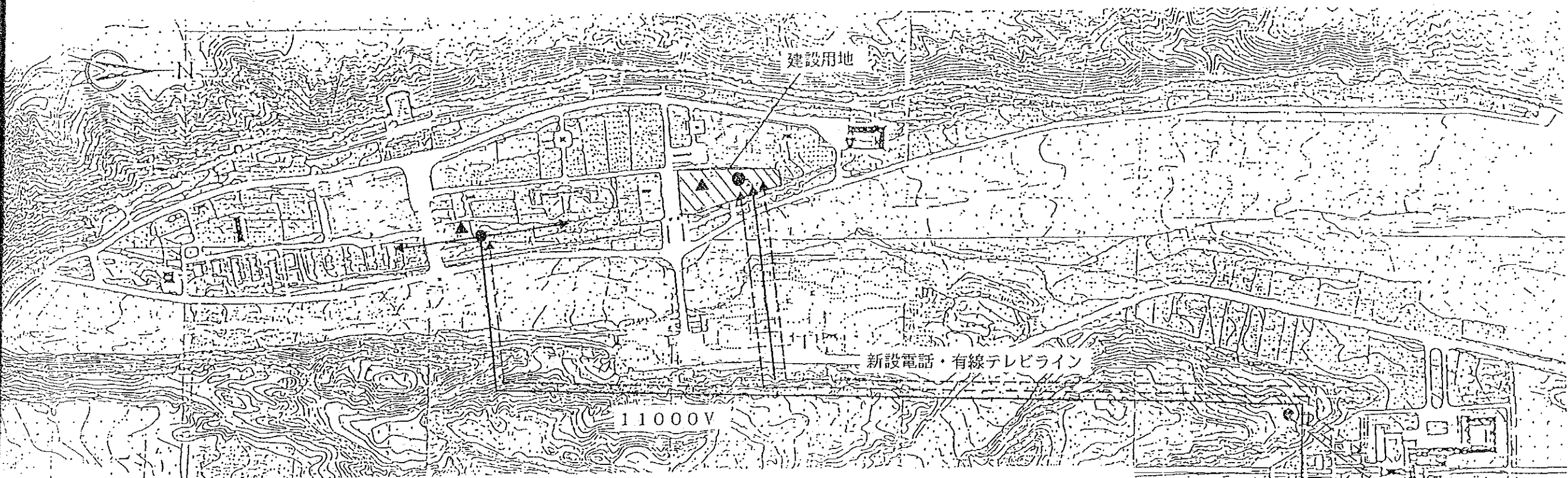
项 目	含 量	项 目	含 量
CO ₃ ²⁻	0.0	分析意见:	
HCO ₃ ⁻	233.19	推用 水 质 位 高	
Cl ⁻	143.79		
SO ₄ ²⁻	824.20		
NO ₃ ⁻	3.4.6		
NO ₂ ⁻	0.04		
F ⁻	1.62		
Ca ²⁺	0		
Mg ²⁺	54.5		
阴 离 子 总 计			
分 化 度			
总 硬 度	2392.65		

(X) 3

183



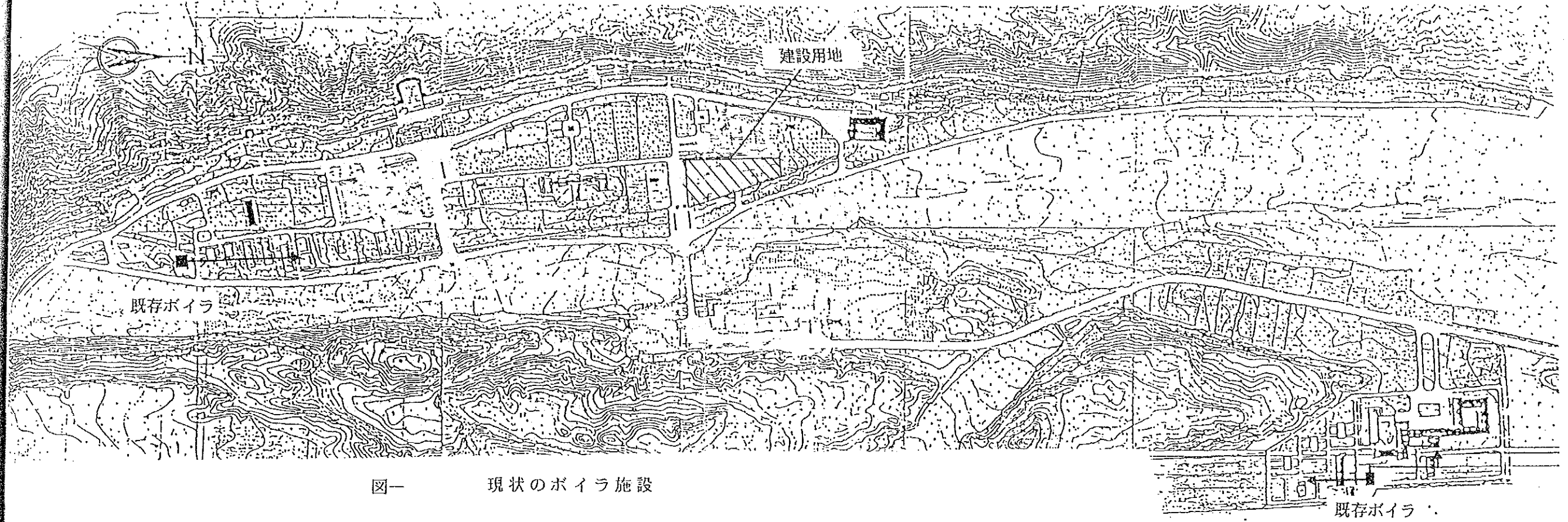
図一 現状の電気設備



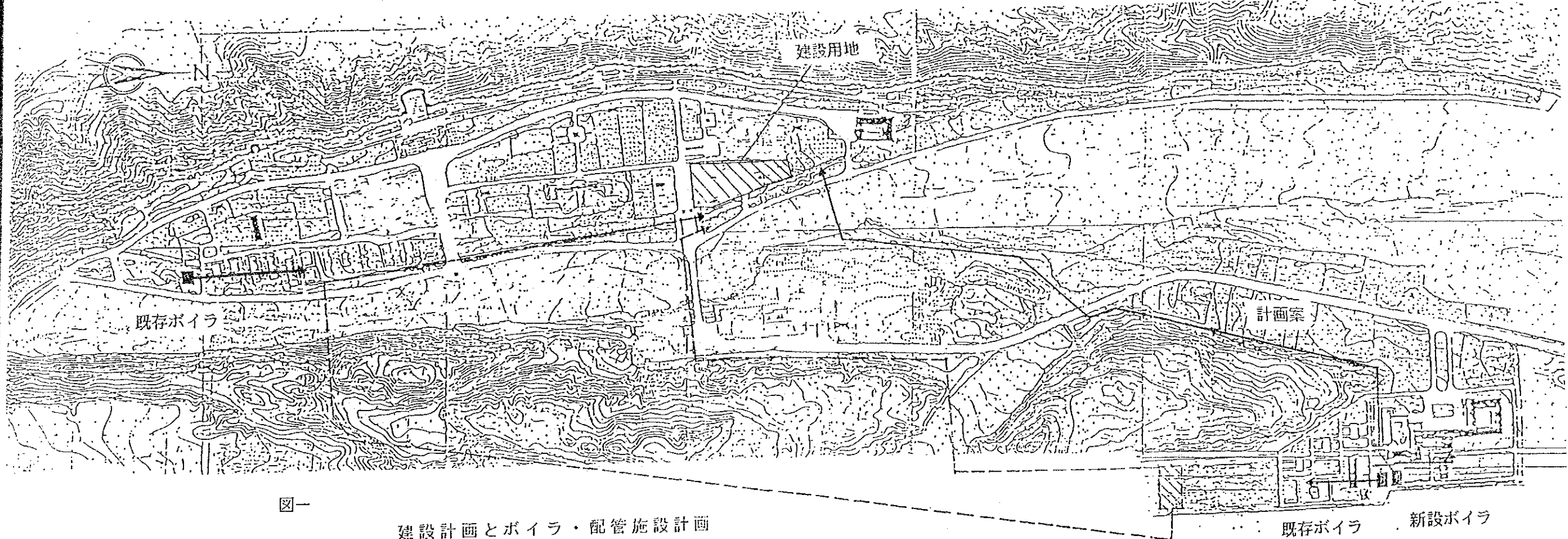
図一 建設計画と電気設備計画

- ▲ 自家発電機
- トランス

変電所より



図一 現状のボイラ施設



図一 建設計画とボイラ・配管施設計画